

官報號外

昭和十七年一月二十四日

○第七十九回衆議院議事速記録第五號

昭和十七年一月二十三日(金曜日)

午後一時七分開議

議事日程 第四號

昭和十七年一月二十三日

午後一時開議

第一 食糧管理法案(政府提出)

第一讀會

第二 國民更生金庫法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三 帝國石油株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第四 重要物資管理營團法案(政府提出)

第一讀會

第五 帝國鑄業開發株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第六 帝國燃料興業株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第七 郵便法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 郵便貯金法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十一 國民體力法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三部選出豫算委員
第四部選出豫算委員
第四部選出豫算委員
第四部選出豫算委員

平野 力三君
鈴木 文治君
岩吉君
井上 良次君
杉浦 武雄君

三八九 鈴木 文治君
原 壮士君
松井 郡治君
片山 守屋 榮夫君
木村 渡邊玉三郎君
木檜三四郎君

陸軍少將 山田 清一
陸軍少將 田中 隆吉
陸軍書記官 日高 已雄
國光 五郎君
津倉 龜作君

飯田 助夫君
大内竹之助君
川副 隆君
北村 文衛君
木村 武雄君

泉 國三郎君
沖島 錄三君
片岡 恒一君
田代 正治君
服部 英明君

前川 正一君
大石 大君
松本治一郎君
伊禮 肇君
稻田 直道君

森 幸太郎君
野溝 勝君
由谷 義治君
平野 力三君
岸田 正記君

小笠原三九郎君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君

高橋圓三郎君
中川 重春君
長野 高一君
米塙 滿亮君
高橋圓三郎君
本田彌市郎君
石坂 養平君
成島 勇君
廣川 弘禪君
卯尾田毅太郎君
山川賴三郎君
宇賀 四郎君
出井 兵吉君
東鄉 實君
西方 利馬君
服部 崎市君
古田喜三太君
松浦周太郎君
三善 信房君
村松 久義君
山田 六郎君
山口忠五郎君
工藤 鐵男君
本田彌市郎君
淺沼稻次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
森 幸太郎君
松田 喜三郎君
村上 國吉君
松浦 伊平君
濱地 文平君
松田 喜三郎君
森 重次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
林 讓治君
森 幸太郎君
野溝 勝君
由谷 義治君
平野 力三君
岸田 正記君
小笠原三九郎君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君

高橋圓三郎君
岡田喜久治君
北 勝太郎君
坂下仙一郎君
高田 耘平君
土田 莊助君
東鄉 實君
西方 利馬君
服部 崎市君
古田喜三太君
松浦周太郎君
三善 信房君
村松 久義君
山田 六郎君
山口忠五郎君
工藤 鐵男君
本田彌市郎君
淺沼稻次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
森 幸太郎君
松田 喜三郎君
村上 國吉君
松浦 伊平君
濱地 文平君
松田 喜三郎君
森 重次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
林 讓治君
森 幸太郎君
野溝 勝君
由谷 義治君
平野 力三君
岸田 正記君
小笠原三九郎君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君

高橋圓三郎君
岡田喜久治君
北 勝太郎君
坂下仙一郎君
高田 耘平君
土田 莊助君
東鄉 實君
西方 利馬君
服部 崎市君
古田喜三太君
松浦周太郎君
三善 信房君
村松 久義君
山田 六郎君
山口忠五郎君
工藤 鐵男君
本田彌市郎君
淺沼稻次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
森 幸太郎君
松田 喜三郎君
村上 國吉君
松浦 伊平君
濱地 文平君
松田 喜三郎君
森 重次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
林 讓治君
森 幸太郎君
野溝 勝君
由谷 義治君
平野 力三君
岸田 正記君
小笠原三九郎君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君

野田文一郎君
米塙 滿亮君
高橋圓三郎君
本田彌市郎君
石坂 養平君
成島 勇君
廣川 弘禪君
卯尾田毅太郎君
山川賴三郎君
宇賀 四郎君
出井 兵吉君
東鄉 實君
西方 利馬君
服部 崎市君
古田喜三太君
松浦周太郎君
三善 信房君
村松 久義君
山田 六郎君
山口忠五郎君
工藤 鐵男君
本田彌市郎君
淺沼稻次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
森 幸太郎君
松田 喜三郎君
村上 國吉君
松浦 伊平君
濱地 文平君
松田 喜三郎君
森 重次郎君
山川賴三郎君
吉田 賢一君
林 讓治君
森 幸太郎君
野溝 勝君
由谷 義治君
平野 力三君
岸田 正記君
小笠原三九郎君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君
佐藤洋之助君

第七部選出豫算委員

第四部選出決算委員

第五部選出決算委員

第六部選出請願委員

第九部選出請願委員

第七部選出請願委員

第一部選出建議委員

第二部選出建議委員

第三部選出建議委員

第四部選出建議委員

第五部選出建議委員

第六部選出建議委員

第七部選出建議委員

第八部選出建議委員

第九部選出建議委員

第十部選出建議委員

第十一部選出建議委員

第十二部選出建議委員

第十三部選出建議委員

第十四部選出建議委員

第十五部選出建議委員

(政府提出)委員

米穀需給調節特別會計法中改正法律案

米塙 滿亮君

安倍 寛君

高橋圓三郎君

高橋圓三郎君

今成留之助君

小串 清一君

岩瀬 亮君

北原阿智之助君

高橋圓三郎君

川島正次郎君

北原阿智之助君

高橋圓三郎君

第三種郵便物認可

明治二十五年三月三十日

所得稅法中改正法律案(政府提出)外十七
件委員

野口 喜一君	古島 義夢君
本田 義成君	堀内 良平君
松尾 四郎君	前田房之助君
最上 政三君	松本 忠雄君
渡邊玉三郎君	大野 伴睦君
岡崎久次郎君	岡崎 壽君
笠井 重治君	山崎 銳二君
富吉 榮二君	富吉 榮二君
日本銀行法案(政府提出)外二件委員	
井阪 豊光君	井阪 豊光君
飯村 五郎君	小野 謙一君
大口 喜六君	加藤 知正君
大本貞太郎君	勝 正憲君
木村 正義君	小山倉之助君
木暮武太夫君	太田 理一君
鈴木 英雄君	菊池 良一君
武田徳三郎君	熊谷 直太君
豐田 豊吉君	坂本宗太郎君
内藤 正剛君	高橋熊次郎君
中田 儀直君	駒井 重次君
長井 源君	坂本宗太郎君
西村金三郎君	熊谷 直太君
福井 甚三君	高橋熊次郎君
廣川 弘禪君	豊田 收君
堀内 良平君	坂田 道男君
松永 東君	篠原 陸朗君
青山 憲三君	立川 平君
桑吉君	古屋 廉隆君
豊一君	守屋 榮夫君
世耕 弘一君	大石 倫治君
河合 義一君	田川大吉郎君
三輪 壽壯君	金井 正夫君
栗山 博君	佐竹 曙記君
本田 英作君	青木 作雄君
水谷長三郎君	森田 福市君
兵器等製造事業特別助成法案(政府提出)	
西田 郁平君	青山 憲三君
西村 茂生君	伊藤東一郎君
中井川 浩君	伊禮 肇君

長谷 長次君

三浦 虎雄君

宮崎 一君

村瀬 武男君

安藤 孝三君

江藤源九郎君

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ生産費及物價
其ノ他ノ經濟事情ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四條 政府ハ其ノ買入レタル米麥ヲ食
糧營團又ハ政府ノ指定スル者ニ賣渡ス
モノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ賣渡ノ價格
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ家計費及物價
ス、御諮り致シマス、豫算委員長ヨリ本日
本會議中竝ニ自今本會議中ト雖モ委員會ヲ
開キタイドノ申出ガアリマス、之ヲ許スニ
御異議アリマセヌカ

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣
渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定ム

第六條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ
主要食糧ノ輸入若ハ移入ヲ目的トスル
買入又ハ輸出若ハ移出ヲ目的トスル賣
渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入又ハ賣
渡ノ價格ハ政府之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主
要食糧ノ貸付又ハ交付ヲ爲スコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ主要食
糧ノ貯藏、交換、加工又ハ製造ヲ爲ス
コトヲ得

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ之ヲ許可致シマス——日程第一、
食糧管理法案ノ第一讀會ヲ開キマス——井
野農林大臣

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ之ヲ許可致シマス——日程第一、
食糧管理法案ノ第一讀會ヲ開キマス——井
野農林大臣

第一 食糧管理法案(政府提出) 第一讀會

食糧管理法

食糧管理法

第一 食糧管理法案(政府提出) 第一讀會

食糧管理法

食糧管理法

第一條 本法ハ國民食糧ノ確保及國民經
濟ノ安定ヲ圖ル爲食糧ヲ管理シ其ノ需
給及價格ノ調整並ニ配給ノ統制ヲ行フ

コトヲ得

第二條 本法ニ於テ主要食糧トハ米穀、
大麥、稞麥、小麥其ノ他勅令ヲ以テ定

ムル食糧ヲ謂フ

第三條 米穀、大麥、稞麥又ハ小麥(以
下米麥ト稱ス)ノ生産者又ハ土地ニ付

權利ヲ有シ小作料トシテ之ヲ受クル者

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生産シ又

ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ命
令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スペ

シ

第十條 政府ハ特ニ必要アリト認ムルト
ハ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ買入ノ價格

第二項第三項 第二十五條乃至第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ同法第十二條第一項、第十三條第二項、第二十一條第二十七條第三十五條、第三十七條第二項、第三十九條第四十條第一項及第四十一條中主務大臣トアルハ政府トシ同法第十九條第二項中副理事長ハトアルハ地方食糧營團ニ付テハ理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リトシ同法第四十條中農地開發營團監理官トアルハ食糧營團監理官トス第三十一條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條第一項又ハ第十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

前項第二號ノ場合ニ於テ輸出若ハ移出又ハ輸入若ハ移入シタル主要食糧ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 第二十三條第二項(第二十九條ニ於テ准用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者
第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條、第三十二條、第三十四條又ハ第三十五條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スル外其ノ法人又ハ人ニ對シ冬木條ノ罰金ヲ科ス

第三十八條 合糴營團ノ總裁、副總裁、理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下の罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得ニ違反シタルトキハ總裁、理事長、總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁又

第三十條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ル當該官吏又ハ貢員ノ検査ヲ拒ミ、妨害又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ貢員ノ検査ヲ拒ミ、妨害又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル
事ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又
ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁
又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
第四十一條 食糧營團ノ總裁、副總裁、
理事長又ハ營務ヲ分掌スル理事第三十
條ニ於テ準用スル農地開發法第二十一
條ノ規定ニ違反シ他ノ職務ニ從事シタ
ルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第四十二條 第十四條第三項ノ規定ニ違
反シ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ
用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス
第四十三條 本法ノ一部ハ勅令ヲ定ムル
所ニ依リ之ヲ樺太ニ適用セザルコトヲ
得
樺太ニ於テ本法ヲ適用スルニ付必要ナ
ル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ時例ヲ設
クルコトヲ得
附 則
第四十四條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ
付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十五條 左ニ掲タル法律ハ之ヲ廢止
ス
一 農產物検査法
二 米穀統制法
三 米穀自治管理法
四 米穀配給統制法
五 共同貯藏助成法
六 政府所有米穀特別處理法
七 昭和十二年法律第五十二號
八 昭和十二年法律第九十號
前項ニ掲タル法律廢止前當該法律ノ罰
則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍從
前ノ例ニ依ル第一項ニ掲タル法律ノ廢
止ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之

第四十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ
政府ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第十九條第一項ニ掲タル事業ト同種ノ事業ヲ行フ株式會社、商業組合、商業組合聯合、工業組合又ハ工業組合聯合會ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ對シ其ノ解散ヲ命ヅルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル法人ハ中央食糧營團成立ノ時解散スルモノトシ其ノ權利義務ハ中央食糧營團之ヲ承繼ス此ノ場合ニ於テハ他ノ法令中解散及清算ニ關スル規定ハ之ヲ其ノ法人ニ適用セズ
第四十八條 前條第一項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ政府ノ引受ケタル出資及勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケタル後第二項ノ命令ニ係ル法人ノ株式又ハ出資ニ引當テタル出資ヲ控除シタル殘餘ノ出資ニ付キ出資者ヲ募集スペシ
政府ハ前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ食糧配給事業評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ
設立委員ハ前項ノ検査ヲ受けタル後遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
出資第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ招集スベシ
前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ中央食糧營團總裁ニ引渡スベシ
總裁前項ノ事務ノ引渡ス受ケタルトキハ總裁、副總裁、理事及監事ノ全員ハ

主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

中央食糧營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十條 本法ニ規定スルモノノ外中央食糧營團ノ設立及第四十七條第二項ノ命令ニ係ル法人ノ解散ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 前五條ノ規定ハ地方食糧營團ニ付之ヲ準用ス但シ第四十七條第二項中第十九條第一項トアルハ第二十八條第一項トス

第五十二條 第四十七條第三項ノ規定ニ依リ解散シタル商業組合又ハ商業組合聯合會ノ發行シタル倉荷證券アルトキハ之ヲ當該商業組合又ハ商業組合聯合會ノ權利義務ヲ承繼シタル食糧營團ノ發行シタル倉荷證券ト看做ス

第五十三條 登錄稅法中左ノ項改正ス

第五條ノ二 中央食糧營團カ食糧營團債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 食糧營團債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込 每回拂込金額 千分ノ二

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓
從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金二圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第十九條第七號中「農地開發營團」ノ下ニ「食糧營團」ヲ、「農地開發法」ノ下ニ「食糧管理法」ヲ加フ

第五十四條 印紙稅法第五條中第五號ノ二ヲ第五號ノ三、第五號ノ三ヲ第五號ノ四トシ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
五ノ二 食糧營團ノ發スル出資證券及食糧營團債券

第五十五條 產業組合中央金庫法第十五

條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 食糧營團其ノ他農林水產業ニ關

スル事業ヲ營ム法人ニ對シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲スコト

第五十六條 商工組合中央金庫法第二十九條第一項第三號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合聯合會又ハ食糧營團」ニ改ム

第五十七條 第十四條第三項ノ規定施行ノ際現ニ食糧營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ使用スル者ハ同項ノ規定施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第四十二條 の規定ハ前項ノ期間内之ヲ同項ノ者ニ適用セズ

〔國務大臣井野碩哉君登壇〕

○國務大臣(井野碩哉君) 只今議題トナリ

マシタ食糧管理法案提出ノ理由ヲ説明致シマス

本法律案提出ノ理由ハ三ツノ點ニ歸スルノデアリマス、其ノ第一ハ主要食糧ノ國家管理體制ノ強化ヲ圖ル必要ガアルコトデアリマス、現在政府ハ米麥ノ管理制度ヲ實施シテ居リマスノデ、之ヲ只今申上ゲマシタ食糧營團ヲシテ實施セシメ、何時如何ナル緊急ノ場合ニ於キマシテモ、萬端憾ナキヲ期セントスルモノデアリマス、其ノ他米麥ノ管理制度ノ強化ニ伴ヒマシテ、其ノ検査制度等モ政府ノ買上検査ノ如キ意味ヲ多分ニ持ツヤウニナリマシタノデ、此ノ趣旨ニ即應スル如キ制度ニ改メ、且ツ其ノ豫算ノ御協贊ヲモ御願ヒ致シテ居ルノデアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——西川貞一君
〔西川貞一君登壇〕

○西川貞一君 本法ハ戰時ニ於テ最要

ナル國民ノ食糧供給ニ關シマスル重大法案デアリマスルガ故ニ、私ハ二、三ノ點ニ付

テ簡單ニ政府ノ所見ヲ質シタイト思フノデスルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

ヲ打ツテ一丸トシタ綜合的配給ニ移行スル必要ガアリマスト共ニ、配給機構其ノモノモ亦之ニ即應シタル公共的ナル機構ニ制度化スル必要ガアルノデアリマス、是ガ爲メ中央及ビ地方ニ食糧營團ヲ創設セシメマシテ、主要食糧ノ綜合配給ニ關スル事業ヲ擔當セシメントスルモノデアリマス

第三ハ非常時用食糧ノ貯藏ノ問題デアリマス、從來政府ハ空襲等ノ緊急事態ニ備フル爲ニ非常時用食糧ノ分散貯藏ヲ實施セシメツツアルノデアリマスルガ、貯藏機關ハソレノ物資毎ニ區々トナツテ居リ、統一ヲ缺イテ居リマスノデ、之ヲ只今申上ゲマシタ食糧營團ヲシテ實施セシメ、何時如何ナル緊急ノ場合ニ於キマシテモ、萬端憾ナキヲ期セントスルモノデアリマス、其ノ他米麥ノ管理制度ノ強化ニ伴ヒマシテ、其ノ検査制度等モ政府ノ買上検査ノ如キ意味ヲ多分ニ持ツヤウニナリマシタノデ、此ノ趣旨ニ即應スル如キ制度ニ改メ、且ツ其ノ豫算ノ御協贊ヲモ御願ヒ致シテ居ルノデアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——西川貞一君
〔西川貞一君登壇〕

○西川貞一君 本法ハ戰時ニ於テ最要

ナル國民ノ食糧供給ニ關シマスル重大法案デアリマスルガ故ニ、私ハ二、三ノ點ニ付

テ簡單ニ政府ノ所見ヲ質シタイト思フノデスルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

ヲ打ツテ一丸トシタ綜合的配給ニ移行スル必要ガアリマスト共ニ、配給機構其ノモノモ亦之ニ即應シタル公共的ナル機構ニ制度化スル必要ガアルノデアリマス、是ガ爲メ中央及ビ地方ニ食糧營團ヲ創設セシメマシテ、主要食糧ノ綜合配給ニ關スル事業ヲ擔當セシメントスルモノデアリマス

第三ハ非常時用食糧ノ貯藏ノ問題デアリマス、從來政府ハ空襲等ノ緊急事態ニ備フル爲ニ非常時用食糧ノ分散貯藏ヲ實施セシメツツアルノデアリマスルガ、貯藏機關ハソレノ物資毎ニ區々トナツテ居リ、統一ヲ缺イテ居リマスノデ、之ヲ只今申上ゲマシタ食糧營團ヲシテ實施セシメ、何時如何ナル緊急ノ場合ニ於キマシテモ、萬端憾ナキヲ期セントスルモノデアリマス、其ノ他米麥ノ管理制度ノ強化ニ伴ヒマシテ、其ノ検査制度等モ政府ノ買上検査ノ如キ意味ヲ多分ニ持ツヤウニナリマシタノデ、此ノ趣旨ニ即應スル如キ制度ニ改メ、且ツ其ノ豫算ノ御協贊ヲモ御願ヒ致シテ居ルノデアリマス

以上ノ理由ニ依リマシテ本法律案ヲ提出致シマシタ次第アリマス、何卒御審議ノ上速カニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(田子一民君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——西川貞一君
〔西川貞一君登壇〕

○西川貞一君 本法ハ戰時ニ於テ最要

ナル國民ノ食糧供給ニ關シマスル重大法案デアリマスルガ故ニ、私ハ二、三ノ點ニ付

テ簡單ニ政府ノ所見ヲ質シタイト思フノデスルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ニ鑑ミマシテ、一面ニ於テハ從來殆ド米ノ

スルコトデアリマス、即チ現下ノ食糧事情

ノ農業ハ飽クマデ主要食糧ニ於テハ、自給自足ノ目標ヲ崩スコトハナラスト考ヘルノ
デゴザイマス、即チ煙草トカ砂糖トカ云フ
如キ嗜好品ハ、各々適地適作主義ニ依リマシ
テ、之ヲ國外カラ仰グモ亦宜シイノデゴザ
イマスケレドモ、主要食糧ニ付テハ、國內
ニ於テ絶對ニ之ヲ確保スルト云フコトハ、
食糧政策ノ根本ナクテハナラスト考ヘマ
ス(拍手)特ニ我ガ國ノ食糧生産ハ所謂家族
生産デゴザイマシテ、祖先ノ靈ヲ祀リ、家
業ヲ基礎トシ、家業トシテ營マレルモノデ
ゴザイマシテ、日本精神ノ淵源が此處ニア
ルノデゴザイマス、即チ皇國農民ハ單ニ國
民ノ身體ヲ養フ食糧ヲ生産致シマスノミデ
ハナカニ、同時ニ大和魂ノ糧ヲ其ノ生活ニ於テ
デゴザイマス、惟フニ今ヤ崩壊ノ一路ヲ辿
リツツアリマス所ノ彼ノ英帝國ガ、一島帝國
ヨリ世界ニ跨ル海洋帝國トナリ、産業革命ノ
バ、將來ノ大計ヲ誤ルコトニナルト思フノ
結果國內ノ農村ヲ破滅ニ導キマシタル所
ニ、既ニ今日ノ崩壊ノ端緒ガ孕マレテ居ツ
タト思フノデゴザイマス(拍手)即チ其ノ國
民ノ思想ハ自然ニ功利主義トナリ、自由主
義トナリ、個人主義トナリ、今日ノ英國ノ
末路ハ其ノ農村破滅ノ過程ニ於テ既ニ孕マ
レテ居タト思フノデゴザイマスルガ、今ヤ
我國ガ大東亜戦争ノ輝カシキ戰果ニ依リ
マシテ世界ニ雄飛セントスル際ニ當リマシ
テ、吾々ガ最モ心スベキハ、此ノ國力ノ根
柢ヲ培フ所ノ國內農村ヲ、何處マデモ強化
スルト云フ一點ニアルト考ヘルノデゴザイ
マス(拍手)此一點ニ付キマシテ、農林大臣
臣ハ如何ナル用意ヲ以テ臨マレルカ、願ハ

クハ此ノ際ニ明示サレンコトヲ希望スルノ
デゴザイマス
次ハ食糧營團ノ問題デゴザイマス、此ノ
食糧營團ハ食糧配給機構ノ整備ヲ致スモノ
デゴザイマス、配給機構ノ整備ハ生産體制
ノ整備ト並行スルモノニアリ、生産體制ト
密接不可分ノ關係ヲ持ツテ居ルト思フノデ
ゴザイマス、然ルニ此ノ議會ニ於テ食糧管
理法案ハ提出サレマシタガ、是ト不可分ノ
關係ニアル生産體制ノ整備ニ付テハ、農業
團體統合問題ノ提出ヲ見合ハサレマシタノ
ハ、如何ナル現由ニ依ルモノニアルカ、此
場合御聽キシタインデアリマス(拍手)農業團
體ノ整備ニ付テハ、巷間種々ノ議論ガアリ
。マシタガ、大體農村關係方面ノ意見ハ歸一
スペキ所ニ歸シテ居ツタヤウニ考ヘルノ
デゴザイマス、然ルニ最近町村長會方面ニ
於キマシテハ、尙ホ色々々ノ意見ガ行ハレマ
シテ、當局ニ對シマシテモ種々ノ陳情運動
等ガ行ハレテ居ルヤウニ思フノデゴザイマ
スガ、惟フニ此ノ方面ニ對シマシテ十分ナ
ル諒解ヲ得、協力ヲ求メラレル所ノ御努力
ガ尙ホ農林大臣ニ於テ足ラチカツタノデハ
ナイカト云フコトヲ感ズルノデアリマス、
即チ農業團體ノ統合ハ、何處マデモ全村一
家ノ氣持ニナリマシテ、町村役場モ、農會
產業組合、其ノ他ノ諸團體モ全ク一家ノ氣
分トナリ、而モ生産者ノ自主的貢地ニ於テ整
理トナリ、個人主義トナリ、今日ノ英國ノ
末路ハ其ノ農村破滅ノ過程ニ於テ既ニ孕マ
レテ居タト思フノデゴザイマスルガ、今ヤ
我國ガ大東亜戦争ノ輝カシキ戰果ニ依リ
マシテ世界ニ雄飛セントスル際ニ當リマシ
テ、吾々ガ最モ心スベキハ、此ノ國力ノ根
柢ヲ培フ所ノ國內農村ヲ、何處マデモ強化
スルト云フ一點ニアルト考ヘルノデゴザイ
マス(拍手)此一點ニ付キマシテ、農林大臣
シタイ、此ノ食糧營團ノ性格ニ付テ御尋ね致

體ナリヤ否ヤデゴザイマス、食糧營團ガ食
糧配給ノ責任團體ニアリマスナレバ、ソレ
ハ何處マデモ自主的ナ立場ニ於テ計畫ヲ立
テ、之ヲ執行スルモノナクテハナラヌノ
デアリマス、然ルニ法律ニ依リマスレバ、
ノデアリマス(拍手)此ノ場合ハ政府ガ之ヲ
ノ整備ト並行スルモノニアリ、生産體制ト
密接不可分ノ關係ヲ持ツテ居ルト思フノデ
ゴザイマス、然ルニ此ノ議會ニ於テ食糧管
理法案ハ提出サレマシタガ、是ト不可分ノ
關係ニアル生産體制ノ整備ニ付テハ、農業
團體統合問題ノ提出ヲ見合ハサレマシタノ
ハ、如何ナル現由ニ依ルモノニアルカ、此
場合御聽キシタインデアリマス(拍手)農業團
體ノ整備ニ付テハ、巷間種々ノ議論ガアリ
。マシタガ、大體農村關係方面ノ意見ハ歸一
スペキ所ニ歸シテ居ツタヤウニ考ヘルノ
デゴザイマス、然ルニ最近町村長會方面ニ
於キマシテハ、尙ホ色々々ノ意見ガ行ハレマ
シテ、當局ニ對シマシテモ種々ノ陳情運動
等ガ行ハレテ居ルヤウニ思フノデゴザイマ
スガ、惟フニ此ノ方面ニ對シマシテ十分ナ
ル諒解ヲ得、協力ヲ求メラレル所ノ御努力
ガ尙ホ農林大臣ニ於テ足ラチカツタノデハ
ナイカト云フコトヲ感ズルノデアリマス、
即チ農業團體ノ統合ハ、何處マデモ全村一
家ノ氣持ニナリマシテ、町村役場モ、農會
產業組合、其ノ他ノ諸團體モ全ク一家ノ氣
分トナリ、而モ生産者ノ自主的貢地ニ於テ整
理トナリ、個人主義トナリ、今日ノ英國ノ
末路ハ其ノ農村破滅ノ過程ニ於テ既ニ孕マ
レテ居タト思フノデゴザイマスルガ、今ヤ
我國ガ大東亜戦争ノ輝カシキ戰果ニ依リ
マシテ世界ニ雄飛セントスル際ニ當リマシ
テ、吾々ガ最モ心スベキハ、此ノ國力ノ根
柢ヲ培フ所ノ國內農村ヲ、何處マデモ強化
スルト云フ一點ニアルト考ヘルノデゴザイ
マス(拍手)此一點ニ付キマシテ、農林大臣
シタイ、此ノ食糧營團ノ性格ニ付テ御尋ね致

體ナリヤ否ヤデゴザイマス、食糧營團ガ食
糧配給ノ責任團體ニアリマスナレバ、ソレ
ハ何處マデモ自主的ナ立場ニ於テ計畫ヲ立
テ、之ヲ執行スルモノナクテハナラヌノ
デアリマス、然ルニ法律ニ依リマスレバ、
ノデアリマス(拍手)此ノ場合ハ政府ガ之ヲ
ノ整備ト並行スルモノニアリ、生産體制ト
密接不可分ノ關係ヲ持ツテ居ルト思フノデ
ゴザイマス、然ルニ此ノ議會ニ於テ食糧管
理法案ハ提出サレマシタガ、是ト不可分ノ
關係ニアル生産體制ノ整備ニ付テハ、農業
團體統合問題ノ提出ヲ見合ハサレマシタノ
ハ、如何ナル現由ニ依ルモノニアルカ、此
場合御聽キシタインデアリマス(拍手)農業團
體ノ整備ニ付テハ、巷間種々ノ議論ガアリ
。マシタガ、大體農村關係方面ノ意見ハ歸一
スペキ所ニ歸シテ居ツタヤウニ考ヘルノ
デゴザイマス、然ルニ最近町村長會方面ニ
於キマシテハ、尙ホ色々々ノ意見ガ行ハレマ
シテ、當局ニ對シマシテモ種々ノ陳情運動
等ガ行ハレテ居ルヤウニ思フノデゴザイマ
スガ、惟フニ此ノ方面ニ對シマシテ十分ナ
ル諒解ヲ得、協力ヲ求メラレル所ノ御努力
ガ尙ホ農林大臣ニ於テ足ラチカツタノデハ
ナイカト云フコトヲ感ズルノデアリマス、
即チ農業團體ノ統合ハ、何處マデモ全村一
家ノ氣持ニナリマシテ、町村役場モ、農會
產業組合、其ノ他ノ諸團體モ全ク一家ノ氣
分トナリ、而モ生産者ノ自主的貢地ニ於テ整
理トナリ、個人主義トナリ、今日ノ英國ノ
末路ハ其ノ農村破滅ノ過程ニ於テ既ニ孕マ
レテ居タト思フノデゴザイマスルガ、今ヤ
我國ガ大東亜戦争ノ輝カシキ戰果ニ依リ
マシテ世界ニ雄飛セントスル際ニ當リマシ
テ、吾々ガ最モ心スベキハ、此ノ國力ノ根
柢ヲ培フ所ノ國內農村ヲ、何處マデモ強化
スルト云フ一點ニアルト考ヘルノデゴザイ
マス(拍手)此一點ニ付キマシテ、農林大臣
シタイ、此ノ食糧營團ノ性格ニ付テ御尋ね致

渡リマシテ香川縣ニ行キマスト、三合數匁ノ配給ラシテ居ル、熊本縣ニ行ツテ見マスト、十二月マデハ殆ド自由ニ購買ヲサセテ居ルノデゴザイマス、而モ能本縣ソ隣ノ長崎縣ニ於キマシテハ非常ナル窮屈ヲ感ジテ居ル、斯クノ如キ府縣「ブロック」主義ノ弊害ヲ打開スルコトコソ、今日ノ食糧配給ニ課セラレタル根本ノ問題デナクテハナラヌト思フノアリマス（拍手）然ルニ此ノ法律ニ於テハ此ノ府縣「ブロック」主義ヲ打開スルコトハ出来ナイデハナイカ、眞ニ「ブロック」主義ヲ打開シユト思フナラバ、現在農林省ノ米穀事務所ガ置イテアリマスガ、此ノ米穀事務所ヲ中心位ニ致シマシテ、地方ニ食糧管區ヲ設ケテ、サウシテ此ノ食糧管區ガ農林省直轄指導ノ下ニ於テ、地方ニ適應シタル配給計畫ヲ立テルノデナカツタナラバ、此ノ地方「ブロック」主義ヲ打開スルコトハ出来ナイ、地方長官ニ之ヲ一任シテ置キマスレバ、ドウシテモ自分ノ縣民ガ可愛イノデゴザイマスカ

更ニ重大ナ點デアリマスカラ一點伺ヒマスガ、本法第三條ニ依ル買入價格、第四條ニ依ル所ノ賣渡價格ノ決定基準、決定ノ方式ハ、從來ノ米穀統制法ニ於ケル米穀賣買ノ方式ヲ、其ノ儘跡製サレルノデゴザイマスカ、又變ルノデアレバ、ドウ云フ風ニ變會議ニ於テ御明答ヲ與ヘラレタイ、尙ホ糧營團ノ設立ニ伴ヒマシテ現在ノ米穀配給業者ハ、ドウ云フ風ニ始末サレルノデアルカ、現在ノ米穀配給業者ニ對スル始末、其ノ大體ノ方針ニ付テ此ノ場合明カニサレタ

イノデゴザイマス 尚ホ私ハ數項目ニ亘リマシテ御尋ネシタイ點ガゴザイマスガ、各派交渉會ノ約束ニデアリマス（拍手）然ルニ此ノ法律ニ於テハ此ノ府縣「ブロック」主義ヲ打開スルコトハ出来ナイデハナイカ、眞ニ「ブロック」主義ヲ打開シユト思ヒマス（拍手）

（國務大臣井野碩哉君登壇） ○國務大臣（井野碩哉君） 只今西川議員カラノ御質問ノ第一點、即チ大東亞戰爭緒戦ノ赫々タル戰果ニ依リマシテ、東亞共榮圈ノ確立ノ見透シガハツキリ致シテ參リマシタノデ、是等地域ニ包藏セラル豊富ナル食糧資源ヲ基礎トシテ、食糧問題ニ關シ消費者方面ニ於テハ樂觀論ガ行ハレ、又農村方面ニ於テハ增產政策ニ危惧ノ念ヲ抱ク向省直轄指導ノ下ニ於テ、地方ニ適應シタル配給計畫ヲ立テルノデナカツタナラバ、此ノ地方「ブロック」主義ヲ打開スルコトハ出来ナイ、地方長官ニ之ヲ一任シテ置キマス瞭ニ申上ゲテ置クコトガ必要デアルト存ズルノデアリマス 即チ從來カラ主要食糧ニ付キマシテハ、我ガ内外地ヲ一丸ト致シマシテ、自給自足ノ方針ヲ以テ施策ヲ講ジテ參ツタノデアリマスガ、太東亞戰爭ハ長期戰ヲ覺悟シナケレバナラズ、眞ノ國家總力戰ハ是カラ始マスガ、此ノ點ハ重要デアリマスノデ、少シク長クナリマシタガ、ハツキリ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、其ノ他ノ問題ニ付キマシテハ簡単ニ御答辯ヲ申上ゲマス

（「簡單々々」「呼ブ者アリ」） 所謂兵農兩全ノ見地カラモ、我ガ國農村ヲ堅實ナル發達ハ、帝國ノ隆昌ヲ圖リマス爲ニハ不可缺ノ要請デアリ、總理大臣モ岡田議員ノ質問ニ對シ、此ノ點ヲ力説サレテ居ルノデアリマシテ、農民諸君ハ此ノ點カラ能ク理解シ、安ンジテ其ノ職域奉公タル増產ニ邁進シテ戴キタイト思フノデアリマス、此ノ點ハ重要デアリマスノデ、少シク長クナリマシタガ、ハツキリ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、其ノ他ノ問題ニ付キマシテハ簡単ニ御答辯ヲ申上ゲマス

（「簡單々々」「呼ブ者アリ」） 食糧營團ニ關シマスル問題トシテ、配給機構ノ整備ニ當ルト云フコトガ適當デアルト考ヘマシテ、從來カラモ種々ノ國策會社ヲ作ツテ參ツタノデアリマス、隨テ責任團體デアルコトハ明カデアリマス、農林大臣ガ自ラ其ノ團體ノ責任者トナルガ適當デモトハ明カデアリマスノデ、政府トシテモ其ノ機構ノ完成ニ從ヒマシテ、漸次其ノ責任ヲ移シテ行ク積リデアリマス、農林大臣ガ自ラ其ノ團體ノ責任者トナルガ適當デナイカト云フ御意見デアリマスガ、是ハヤハリ監督者ト被監督者トヲ明カニシテ置ク方ガ適當デアルト考ヘルノデアリマス、隨テ中央食糧營團ノ存立ノ必要モアリマスルシ、又其ノ資金モ多キニ過ギザルヤト云フ御尋ネデアリマスガ、三億圓餘ノ種々ノ食糧ヲ準備致シマシテ、統合配給ヲ致シマス爲ニ其ノ資金モ多キニ過ギザルヤト云フ

（「簡單々々」「呼ブ者アリ」） 機構ノ整備ト生產體制ノ整備トハ兩立スル必要ガアルガ、農業團體統制法ヲナゼ此ノ會議ニ提出シナカツタコト云フ御質問デアリマス、農業團體統制ニ關シマシテハ、農林省トシマシテモ、其ノ必要ヲ認メテ、色彩昨年來苦心ヲシテ參ツタノデアリマスガ、最近ニ於テ漸ク農村方面ノ色々ノ意圖ヲ纏メテ參ツタノデアリマス、此ノ議會ニ對シマシテ、政府トシマシテハ、緒戰目的ヲ

（「簡單々々」「呼ブ者アリ」） 尚ホ私ハ數項目ニ亘リマシテ御尋ネシタイ點ガゴザイマスガ、各派交渉會ノ約束ニデアリマス（拍手）然ルニ此ノ法律ニ於テハ此ノ府縣「ブロック」主義ヲ打開スルコトハ出来ナイデハナイカ、眞ニ「ブロック」主義ヲ打開シユト思ヒマス（拍手）

リマセヌノデ、隨テ此ノ程度ノ資金ハ必要ト致スノデアリマス
又第三ニ買入價格及ビ賣渡價格ヲ、ドウ云フ基準デ決メルカト云フ御尋ネデアリマスガ、是ハ從來ノ方針ト餘リ違ツタ行キ方ヲ致サナインデアリマス、即チ買入ニ付キマシテハ生産費ト云フモノ、其ノ他經濟事情ヲ勘案致シマシテ決メマスルシ、賣渡價格ニ付キマシテハ家計米價、其ノ他ノ經濟事情ヲ考慮ニ入レマシテ決定致スノデアリマシテ、從來ト餘リ大シタ變化ハナインデアリマス、此ノ點ハ委員會ニ於キマシテ詳シク御説明申上ゲタイト存ジマス、尙ホ食糧營團ガ出來マシタ後ニ、米ノ配給業者ノ整備ニ付キマシテドウスルカト云フ御尋不デアリマスルガ、米屋ノ轉廢業問題ニ付キマシテハ、政府トシテモ慎重ニ考慮ヲ加ヘテ參ル積リデアリマシテ、或ハ更生金庫ノ利用デアルトカ、又ハ政府ガ生般議會ノ御協贊ヲ經て取リマシタ中小商工業ノ轉廢業ノ爲ノ資金ノ助成デアリマストカ、或ハ自治的ナル制度ニ依ル所ノ資金ノ借入デアルトカ云フ點ニ付キマシテ、十分考慮ヲ拂ヒマシテ是等業者ノ生活ノ上ニ不安ノナキヤウ善處致ス積リデアリマス、尙ホ地方「プロック」ノ問題ガゴザイマシタガ、此ノ點ハ最近ニ於キマシテハ米麥等ノ主要食糧ニ付キマシテハ、漸次其ノ地方「プロック」ハナクナツテ來居ルノデアリマス、唯今御尋ネノ、例ヘバハ縣ニ依ツテ消費歩合ガ違フ、詰リ配給米ノ數量ガ違フト云フ御質問デアリマスガ、是ハ縣ニ依リマシテ、或ハ米ノミヲ食糧トル所モアリマス、又麥ヲ混ゼテ食ベルコトガ習慣トナツテ居ル所モアリマス、又芋ガ非常ニ多ク穫レルト云フ所モアルノデアリ

マス、隨てソレ等ノ事情ヲ能ク研究シマシテ、各府縣ノ當局者ト其ノ地方ノ事情ノ過去ノ實績ナリ、或ハ現在ノ實情ヲ能ク相談致シマシテ決メテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ此ノ點ハ配給機構ノ整備ト相俟チマシテ、漸次改善サレテ行クコトト存ズルノデアリマス

○議長(田子一民君) 平野力三君

〔平野力三君登壇〕

○平野力三君 私ハ只今議題トナリマシタ食糧管理法案ニ關シマシテ是ヨリ質疑ヲ致シタイト思ヒマス、先づ本案ノ各論ニ付テ御尋ネヲ致シマス前ニ、此ノ劃期的ナル重大法案ヲ提出セラレマシク井野農林大臣ニ對シ、我ガ國農業政策ノ根本ニ亘ル二、三ノ重要問題ニ對シテ御尋ネヲ致シタイト思フノデアリマス

先づ第一點ノ御尋ネハ、本案ノ食糧増産政策ニ關スル關係ニ付テデアリマス、即チ農相ハ本案ヲ提出セラルルニ當リマシテ、此ノ法案ガ實施セラレタナラバ、現下我ガ日本ノ食糧增産政策ニ對シテ、如何ナル影響ヲ及ボスヤト云フコトニ付テ、十分ナル御研究ヲ遂ゲラレタカドウカト云フ點ニ付テデアリマス、私ノ研究ニ依リマスルト、本案ハ我が國ノ米穀政策ノ歴史ニ顧ミマシテ、米穀統制法制定以來、邇リマスナラバ二十右餘年ニ亘ツテ執リ來リマシタル所ノ高米價政策ニ對シテ、最後ノ止メヲ打チマシタ法案デアルト考ヘルノデアリマス、敢テ私ハ本法案ハ低米價政策ナリト斷ズルノデハナイノデアリマスルケレドモ、米價政策ノ上ニ於キマシテハ、米價ガ凡ユル物價ヲ上廻ルノデハナクシテ、凡ユル物價ニ下廻ルト云フ所ニ、本案ノ政策ガアルト云フ

コトヲ考ヘザルヲ得ナインデアリマス、此ノ立場カラ現下ノ我が國ノ農村ノ實情ヲ見マズルト、勞力ハ必ズシモ豊富デハアリマセヌ、肥料亦洵ニ苟屈ナル關係ノ上ニ立チマシテ、生産ニ從事スル農民ノ心理ニ對シテ、増産ノ意欲ヲ昂揚致シマスル問題ハ、何ト申シマシテモ米價政策ヲ無視スル譯ニシテ、諸君ノ間ニ於キマシテハ、時局ヲ能ク認識シ、又職域奉公ノ信念カラ、其ノ増産ニ對シテ渾グマシキ努力ヲ拂ツテ居リマスコトハ、吾々ノ能ク熟知スル所デアリマスガ、是等ノ惡條件ヲ克服致シマシテ、而モ其ノ上ニ米穀增産ノ線ニ向ツテ邁進スルト云フ點ニ對シマシテハ、此ノ米價政策ノ立場ニ立ツテ、農林大臣ガ如何ナル見解ヲ有セラルカト云フコトニ付テ特ニ伺ツテ置キタイノデアリマス、私ガ是ニ於テ農林大臣ニハツキリト御伺ヒヨ致シタイト思ヒマスコトハ、農林大臣ハ此ノ情勢ヲ認識セラレマシテ、此ノ法案ヲ提出サルルニ當ツテ、此ノ惡條件ヲ克服シテ生産ニ從フ農民ニ對シテ、米價政策ノ上ニ於テ低米價政策ヲ執ラヌケレバナラナイ時局ニ鑑ミマスルナラバ、何ガ故ニ食糧増産ノ根柢デアリマスル所ノ肥料ニ對シテ、全肥料ノ國家管理ノ斷行ヲ併セテ主張サレナイカト問ヒタイノデアリマス（拍手）若シ夫レ農民ノ生産致シマシタル糧ニ對シテハ相當ノ統制ガアリマスルガ、農民ガ缺クベカラザル生産ノ原料デアリマス所ノ肥料ニ對シテハ今尙ホ——統制肥

料界ノ現状ト云フモノヲ眺メテ見マスルト、米ニ對シマスル所ノ統制強化ト、肥料ニ對スル所ノ統制強化ト云フモノガ、甚ダシク均衡ヲ缺キヤシナイカト云フコトヲ考へマスル時ニ、農林大臣ハ此ノ法案ヲ提出セラルルニ當ツテ、何が故ニ肥料ノ全面的國家管理ト云フ問題ニ付テ、十分ナル御考へガズナカツタカト云フコトヲ、私ハ農林大臣ニ間ハザルヲ得ナインデアリマス(拍手)同時ニハツキリト農相ニ問ヒマスルノハ、今議會ニ於キマシテ、今尙ホ命期ハ相當ニアルノデアリマスルカラ、此ノ肥料政策ニ對シテ何カ根本的ナル立法ヲセラルルノ意思ガアルカナイカ、若シ單獨ニ肥料ニ關シマスル所ノ法案ヲ立案セラレナイト致シマスルナラバ、現在ノ肥粧政策ニ付テ――農民ハ米八供出致シマスルガ、一番大切な肥料ハ國家ノ力ニ於テ完全ニ必要量ノ補給ガ出來ルトニ云フ安心ヲ與ヘマスルコトニ對シテ、如何ナル具體的ノ政策ヲ以テ臨マルカト云フコトニ付テ、ハツキリト御答辯ヲ願ヒタクトイ思フノデアリマス

シマスル途上ニ於テ、農村ニ於キマスル不
在地主ト稱シマスル者ハ、最早小作料ヲ米
デ取ル所ノ権利ハナインデアリマス、又一
般地主階級ニ於キマシテモ、取リマンシタ小
作料ハ自己ノ飯米ヲ除キマシテ全部供出デ
アリマス、此ノ食糧政策ガ現在農村ニ施行
サレテ參リマスルヤ、農村ニ於キマスル土
地ノ所有者ノ間ニ於キマシテハ、土地所有
ノ根本觀念ニ對シマシテ重大ナル變化ヲ招
ル農地ノ管理者ト致シマシテ、農業生産ト
來スルト云フコトハ、見逃スベカラザル問
題デアリマス、即チ土地ノ所有者ガ善良ナ
云フモノニ從事致シマシタ時代ハ既ニ過ぎ
去リマシテ、農村ニ於ケル地主ハ、自己ノ
所有スル所ノ農地ニ對シテ、吾々ハ將來如
何ニナスベキヤト云フコトニ付テ重大ナル
考慮ヲ拂ヒツアリマセウカ、此ノ重
大ナル國家使命ヲ擔當ハ致シテ居リマスル
ガ、現在與ヘラレテ居リマスル所ノ農業立
法ノ上ニ於キマシテハ、耕地未ダ安定セズ、又
高率小作料ノ爲ニ農業ノ再生産ハ阻マレテ、
如何ニ農業増産政策ヲ國家ガ之ニ強制スル
ト致シマシテモ、此ノ不合理ナル土地制度
カラ來ル增産ノ障碍ハ、今ヤ蔽フベカラザル
所ノ重大問題トシテ全農村ニ纏綿トシテ居
ルコトハ間違ヒナイノデアリマス(拍手)私
ハ此ノ點ニ付キマシテ井野農林大臣ニハツ
リマスルナラバ、農林大臣ノ農村問題ニ對
キリト御伺ヒ致シタイト思フコトハ、此ノ
法律案ヲ唯單ニ現下ノ我ガ國ノ應急的食糧
スル信念ヲ疑フノデアリマス、苟クモ大東

亞建設ノ途上ニ於テ、此ノ非常時内閣ヲ擔
當セラレル農林大臣ト致シマシテハ、國家
ノ根本的食糧問題ヲ解決スルニ當ツテ、唯
食糧ノ需給調節デアルトカ、唯食糧ノ偏在
等ヲ防グト云フヤウナ断片的ナル問題ヲ考
究サルルニアラズシテ、此ノ絶好ノ機會ニ
惠マレ、地主、小作人共ニ我方國ノ農地問
題ニ對シテ根本的ナル解決ヲ要求シテ居リ
マス今日ニ於テ、時ノ農林大臣デアリマス
ル井野農林大臣ハ、何ガ故ニ此ノ農地問題
ノ根本ニ對シマシテ、今議會ニ其ノ法案ヲ
御出シニナラナイカト問ヒタイノデアリマ
ス、ソレハ農林當局ニ於テ研究中デアルト
カ、或ハ諸君ノ御意見ハ御尤モデアルトカ
云フヤウナ、唯一時のナル言論上ノ答辯ヲ
承ルニアラズシテ、本當ニ此ノ問題ニ對シ
テ農林大臣ガ必要ヲ認識サレテ居ルノデア
ルカ、或ハ認識サレテ居ラナイカト云フ點
ニ對シマシテ、ハツキリ御尋ネシテ置キタ
イノデアリマス

思フノデアリマス(拍手)此ノ點ニ於キマシテ私ガ現在具體的ニ農林大臣ニ御伺ヒ致シタイト思ヒマスコトハ、單ニ農村ヲ民族ノ源泉デアルトカ、單ニ農村ハ凡ニユル意味ニ於テ重大デアルト云フ言葉ノ上ダケデハナクシテ、之ヲ政策ノ上ニ如實ニ徹底致シマスル所ノ具體策如恒ト云フコトニ付テデアリマス、固ヨリ本議場ニ於キマシテモ、農村問題ヲ色々ノ角度カラ研究ヲサレ、或ハ主張サレテ居ル人ガアルノデアリマスガ、最近ニ於キマシテハ、冬議員ノ結論ト致シマシテハ、世襲家産制自作農ヲ創定スルト云フコトガ、我ガ國ノ農村ヲシテ眞ニ民族血ノ源泉タラシメルコトノ根本問題トシテ、概々意見ノ一致ヲ見テ參ツテ居ルノデアリマス、既ニ此ノ點ニ關シマシテハ、私共ハ同志數十名ト共ニ家産制自作農創定ヲ目標トシ之ヲ實現セントスル立場カラ、農地國家管理法案ノ提出ヲ一兩日中ニ致シタイト考ヘテ居ルモノニアリ、既ニ同志林平馬君ヨリハ農地世襲財產法ナルモノガ議員提出法律案トシテ今議會ニ現レテ居ルノデアリマスガ、農林大臣ハ此ノ際今議會ニ是等ノ土地問題ニ對シマスル所ノ根本立法ヲ政府ノ手ヲ以テ立法セラルカ否カ、若シ政府ノ手ニ於テ立法セザルト致シマスルナラバ、議員提出法律案トシテ極メ熱心ニ主張シ研究ヲ遂ゲテ居リマスル是等ノ提案ニ對シテ、政府ハ如何ナアル唯議員提出法律案ニアリマスルガ故ニ、是等ノ法律案ニ對シテ唯聞キ置クトイフヤウナ程度デアルト致シマスナラバ、私ハ敢テ農林大臣ニ反問致シマスノハ、農相ガ此ノ

劃期的ナル所ノ食糧管理法案ヲ御出シニナ
ツテ居リマスルガ、ソレハ單ニ食糧ヲ食糧
トシテノミ見ルダケノ立場デアリマシテ、
真ニ心ノ底カラ現下ノ我ガ日本ノ農村問題
ノ根幹ニ横ハル重大問題ヲ解決セラル上
ニ於テ、其ノ熱意ノ乏シキコトヲ疑ハザル
ヲ得ナイト思フノデアリマス(拍手)願ハク
ハ此ノ點ニ關シマシテハ農林大臣ト致シマ
シテ、ハツキリ以上私ノ申述ベマシタ根本
論ニ付テ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス
最後ニ詳細ナル各論ニ對シマシテハ一切
委員會ニ譲ルノデアリマスルガ、左ノ若干
項目ニ向ヒマシテ、極メテ簡単ニ御伺ヒヲ
致シマシテソレド^ム御答辯ヲ得タイト思ヒ
マス、第一點ハ、本法案ニ依リマシテ、農
產物検査法ヲ廢スルト稱セラレ、只今ノ提
案理由ニ依リマスト、米穀検査ハ別ニ之ヲ
定メルト仰シヤツタノデアリマスガ、其ノ
米穀検査ノ内容ハ、從來ノ如ク極メテ複雜
ナル内容ヲ持ツモノデハナクシテ、此ノ際
執ルベキ方法トシテハ、極メテ簡潔ニシテ
農民ノ容易ニ満足シ得ル所ノ方法ヲ御執リ
ニナツテ然ルベキダト思フノデアリマスガ、
之ニ對シマシテハ何ト考ヘテ居ラルルカ、
ソレカラ第二ノ問題ト致シマシテ、生産者ニ
對シテ一石五圓ノ獎勵金ヲ交付サレテ來テ
居ルゾデアリマスガ、此ノ一石五圓ノ生産
獎勵金ハ尙ホ相當長キニワツテ繼續セラル
ル方針デアルカ、第三ノ問題ト致シマシテ
ハ、政府ノ賣渡價格一石四十三圓ト云フ値
段ハ、之ヲ當分ノ間据置カレルト云フコト
ニナルノデアリマセウカ、第四ハ、本法案
ノ第二條ニ、米麥以外ノ食糧ニ關シテハ勅
令ヲ以テ定ムト書イテアリマスルガ、現在
想定サレテ居リマスル所ノ米麥以外ノ食糧

凡ソ如何ナルモノヲ含ムノデアリマセウ
カ、尙ホ御伺ヒ致シタインハ、米麥以外ノ
食糧ノ中ニ、既ニ統制ヲサレマシテ、其ノ
效果ノ上ニ相當疑ヒアリト考ヘテ居リマスル
所ノ廿諸ノ問題ニ關シマシテハ、本法案ニ
依リマスト、時價ニ依ツテ買取ルト云フコ
トガ書イテアリマスルガ、是等ノ點ニ付テ
ハ果シテ左様ニナスコトガ出来ルノデアリ
マスカ、御伺ヒラ致シタイト思フノデアリ
マス、殘餘ノ問題ニ關シマシテハ一切之ヲ
委員會ニ譲ルト致シマシテ、私ノ本議場ニ
於ケル質問ヲ終リマス(拍手)

テモ、現在逐次殆ど全面的ノ國家管理ニ近イ制度ニナリツツアルノデアリマス、殊ニ配給部門ニ付キマシテハ、肥料統制法ニ依リマシテ相當ノ程度ノ國家管理が行ハレテ居ルノデアリマシテ、生産部門ニ付キマシテモ逐次統制ヲ圖ツテ參リタイト考ヘテ居リマス、隨テ只今直チニ肥料ノ全面的國家管理法ヲ此ノ議會ニ提出スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、政府トシテハ其ノ考ヘヲ持ツテ居リマセヌ、然フバ具體的ニ肥料ノ配給ニ付テドウ云フ考ヘヲ持ツテ居ルカト云フ御尋ネデアリマスガ、肥料ニ付キマシテハ御承知ノ通り現在ハ石炭ガ不足、或ハ其ノ他ノ資材不足カラ生産減ラ生ジテ居リマス、又過磷酸ニ付キマシテモ輸入原礦ノ不足カラ相當ノ減產ヲ見ナケレバナラヌ立場ニアリマスガ、是ハ極力政府トシテシテ居リマス、併シ現在ノ狀態ニ於テハ到底十分ナル供給ガ因難デアリマスノデ、當リトシテハ自給肥料ノ増產ニ付テ種々ノ方策ヲ講ジテ居リマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソレヲ以テ差當リノ具體の方策ト致シテ參リタイト考ヘテ居リマス

當面ノ問題デアリマスノデ、隨ツテ根本的
ノ諸種ノ制度ニ付キマシテハ、十分研究ヲ
致シマシテ善處致シタイト考ヘテ居リマス
第三ノ點ハ民族ノ源泉トシテノ農村トガ
ヘル時ニ、世襲家產制度ヲ考ヘナイカト云
フ御尋ネデアリマスガ、此ノ點モ農林省ト
シテハ研究ヲ致シテ居リマス、併シ未ダ成
案ヲ得マセヌノデ、議會ニ提案スル程度ニ
ナツテ居リマセヌ、然ラバ議員ノ出シタ法
案ヲドウ考ヘルカト云フ御尋ネデアリマス
ガ、ソレハ出マシタ上デ能ク考ヘタイト存
ジマス

第四點ハ種々ノ細カイ問題デアリマスル
ガ、其ノ第一ハ、農產物ノ検査法ヲ今度ハ
變ヘルガ、ソレヲ簡易化スルヤ否ヤト言フ
御尋ネデアリマスルガ、是ハ出來ルダケ簡
易化シテ參リタイト考ヘテ居リマス、委員
會ニ於キマシテ十分内容ヲ御説明申上ゲ
テ、御詒解ヲ得タイト存ジテ居リマス、第
二ハ、生産者ニ對スル一肩賞リ五圓ノ獎勵
金ハ尙ホ繼續スル方針デアルカドウカト云
フ御尋ネデアリマスルガ、現在ノ經濟事情
ニ於キマシテ著シキ變化ナキ限り此ノ方針
ハ續クル意味ヲ以チマシテ、今回豫算ニモ
此ノ獎勵金ヲ計上シテ明年度モ出スコトニ
ナツテ居リマス、隨テ其ノ點ハ十分御諒承
願ヒタイト思ブノデアリマス、第三ハ、賣
渡價格ヲ据置クカドウカト云フ問題デアリ
マスルガ、是モ低物價政策ヲ堅持シテ居リ
マスル現在ニ於キマシテハ、今變更スル意
志ハ持ツテ居リマセヌ、第四ノ米麥以外ノ
食糧トハ何カト云フ御尋ネデアリマスルガ、
是ハ甘諸、馬鈴薯デアルトカ、或ハ雜穀等
ヲ指スノデアリマシテ、是ガ買入ニ付テノ

○依光好秋君 本案ハ政府提出米穀需給調節特別會計法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマス

○議長(田子一民君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○議長(田子一民君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二乃至第六ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(田子一民君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、國民更生金庫法中改正法律案、日程第三、帝國石油株式會社法中改正法律案、日程第四、重要物資管理等團法案、日程第五、帝國鑄業開発株式會社法中改正法律案、日程第六、帝國燃料興業株式會社法中改正法律案、右五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——岸商工大臣

第二 國民更生金庫法中改正法律案
(政府提出) 第一讀會

第三 帝國石油株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 重要物資管理營團法案 (政府提出) 第一讀會

第五 帝國鑄業開發株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 帝國燃料興業株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

國民更生金庫法中改正法律案

國民更生金庫法中左ノ通改正ス

第五條ノ二 國民更生金庫ノ資本金ヲ三

千萬圓増加シ政府之ヲ出資ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規

定ニ依ル政府ノ出資ニ之ヲ準用ス

第十九條中「十倍」ヲ「十五倍」ニ改ム

第三十七條第三項中「大藏大臣」ヲ「主務

大臣大藏大臣ニ協議シテ」ニ改ム

附 則 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付効令ヲ以テ

之ヲ定ム

帝國石油株式會社法中改正法律案

帝國石油株式會社法中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

帝國石油株式會社ノ資本ノ内五千萬圓

ハ政府ノ出資トス但シ前條但書ノ場合

ニ於テハ政府ノ出資ハ五千萬圓ヲ超ユ

ルコトヲ得

第七條中「總裁副總裁各一人」ヲ「總裁一

人、副總裁二人」ニ改ム

第八條第二項中「副總裁ハ」ノ下ニ「宗款

ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加フ

第十二條第一項中「三倍」ヲ「五倍」ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要物資管理營團法案

第一章 總則
第一條 重要物資管理營團ハ戰時ニ際シ
重要物資ノ貯藏ヲ確保及增强シ茲ニ貯
藏重要物資ノ利用ヲ有效且適正ナラシ
ムコトヲ目的トス

重要物資管理營團ハ法人トス

本法ノ重要物資ノ範圍ハ命令ヲ以テ之

ヲ定ム

第二條 重要物資管理營團ハ主タル事務

所ヲ東京市ニ置ク

重要物資管理營團ハ政府ノ認可ヲ受ケ
必要ノ地ニ從タル事務所ヲ設置スルコ
トヲ得

第三條 重要物資管理營團ノ資本金ハ二

千萬圓トス

第四條 政府ハ二千萬圓ヲ重要物資管理

營團ニ出資スペシ

前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ

爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ

交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之

ヲ定ム

帝國石油株式會社法中改正法律案

帝國石油株式會社法中左ノ通改正ス

第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

帝國石油株式會社ノ資本ノ内五千萬圓

ハ政府ノ出資トス但シ前條但書ノ場合

ニ於テハ政府ノ出資ハ五千萬圓ヲ超ユ

ルコトヲ得

第七條中「總裁副總裁各一人」ヲ「總裁一

人、副總裁二人」ニ改ム

第八條第二項中「副總裁ハ」ノ下ニ「宗款

ノ定ムル所ニ依リ」ヲ加フ

第十二條第一項中「三倍」ヲ「五倍」ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

重要物資管理營團法案

第九條 重要物資管理營團ニ非ザル者ハ
重要物資管理營團又ハ之ニ類似スル名
稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十條 民法第四十四條、第五十條、第六

五十四條及第五十七條並ニ非訟事件手

續法第三十五條第一項ノ規定ハ重要物

資管理營團ニ之ヲ準用ス

第十一條 重要物資管理營團三理事長副

理事長各一人、理事三人以上及監事二

人以上ヲ置ク

理事長ハ重要物資管理營團ヲ代表シ其

ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要

物資管理營團ヲ代表シ理事長ヲ輔佐シ

テ重要物資管理營團ノ業務ヲ掌理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ

職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ

職務ヲ行フ

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要物資

管理營團ヲ代表シ理事長及副理事長ヲ

輔佐シテ重要物資管理營團ノ業務ヲ掌

理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及

副理事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務

ヲ代理シ理事長及副理事長共ニ缺員ノ

トキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ重要物資管理營團ノ業務ヲ監査

ス

第七條 重要物資管理營團ニハ所得稅、

法人稅及營業稅ヲ課セズ北海道、府縣、

市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ重要

物資管理營團ノ事業ニ對シテハ地方稅

ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ

基キ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ

タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 重要物資管理營團ニ付解散ヲ必

要トスル事由發生シタル場合ニ於テ其

ノ處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ

ルコトヲ得

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他
ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府

ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラ

ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事

項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルト

キハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年ト

ス

第十五條 重要物資管理營團ニ評議員若

干人ヲ置キ政府之ヲ命ズ

評議員ハ業務經營ニ關スル重要ナル事

項ニ付理事長ノ諮問ニ應ジ必要アルト

キハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年ト

ス

第十六條 重要物資管理營團ハ左ノ業務

ヲ行フ

一 重要物資ノ保有

二 重要物資ノ買入、輸入及賣渡

三 其ノ他重要物資管理營團ノ目的達

成上必要ナル事業

重要物資管理營團ハ前項第一號及第二

號ノ業務ニ付テハ政府ノ定ムル計畫ニ

依リテ之ヲ行フベシ

重要物資管理營團第一項第三號ノ業務

ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受

クベシ

重要物資管理營團第一項第三號ノ業務

ヲ行ハントスルトキハ政府ノ認可ヲ受

クベシ

重要物資管理營團必要アリト認ムル

キハ政府ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使用人

ヲシテ前項ニ掲グル者ノ業務ニ關スル

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムル

コトヲ得

重要物資管理營團前項ノ規定ニ依リ役

員又ハ使用人ヲシテ検査セシムル場合

ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル認可アリタ

ルコトヲ得

重要物資管理營團必要アリト認ムル

キハ政府ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使用人

ヲシテ前項ニ掲グル者ノ業務ニ關スル

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムル

コトヲ得

重要物資管理營團必要アリト認ムル

キハ政府ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使用人

ヲシテ前項ニ掲グル者ノ業務ニ關スル

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムル

コトヲ得

重要物資管理營團必要アリト認ムル

キハ政府ノ認可ヲ受ケ役員又ハ使用人

ヲシテ前項ニ掲グル者ノ業務ニ關スル

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムル

コトヲ得

第十八條 重要物資管理營團ハ命令ノ定

ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ物資ノ生産輸出、輸入、販賣又ハ保管ヲ業トスル者ニ對シ重要物資管理營團ノ所有ヲ得

前項ノ場合ニ於テ保管ニ要シタル費用ハ重要物資管理營團ノ負擔トス

第十九條 重要物資管理營團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第二十條 重要物資管理營團ハ設立ノ時及事業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借照表及損益計算書ヲ作成シ、定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

第五章 監督

第二十一條 重要物資管理營團ハ政府之ヲ監督ス

第二十二條 重要物資管理營團ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十三條 重要物資管理營團ハ業務開始ノ際業務ノ方法ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條 政府ハ重要物資管理營團ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲

サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要

ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲコトヲ得

第二十五條 役員方法令、宗族若ハ政府ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行為ヲ爲シタルトキハ政府ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 重要物資管理營團ノ理事長、副理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲコトヲ得

要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ

徴役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲

サザルトキハ五年以下徴役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル時賄ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追

徴ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル時賄ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收

徴ス

第二十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ徴役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌避シタル者ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十條 第二項ノ規定ニ違反シ書類ヲ備

三 正當ノ事由ナクシテ第十八條第一項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲サザル者

第二十九條 人又ハ法人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ人又ハ法人ノ業務ニ關シ前條第一號又ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ人又ハ法人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十一條 第二十八條第一項及第三號ノ規定ニ付テ之ヲ定ム

第三十二條 政府ハ設立委員ヲ命ジ重要物資管理營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第三十三條 第九條ノ規定ニ違反シ重要物資管理營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

二 第十七條 第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌避シタル者ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 政府ハ設立委員ヲ命ジ重要物資管理營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第三十六條 設立委員ハ宗族ヲ作成シ政

府ノ認可ヲ受クベシ

第三十七條 定款ニ付政府ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資ノ第

一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第三十八條 出資ノ第一回ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ

管理營團ノ理事長、副理事長、理事又

ハ監事ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ政府ノ認可ヲ受クベキ場各ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ規定セザル業務ヲ營ミタル

三 第十六條 第二項ノ規定ニ違反シ政

府ノ定ムル計畫ニ依ラズシテ業務ヲ行ヒタルトキ

四 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

五 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

六 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

七 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

八 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

九 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十一 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十二 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十三 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十四 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十五 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

十六 政府ノ監督上ノ命令又ハ處分ニ違

反シタルトキ

キハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ設立ノ登記ヲ爲スベシ
重要物資管理營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第三十九條 登錄稅法中左ノ通改正ス
登錄稅法第十九條第七號中「產業設備營團」ノ下ニ「重要物資管理營團」ヲ「產業設備營團法」ノ下ニ「重要物資管

理營團法」ヲ加フ

第四十條 印紙法中左ノ通改正ス

第五條第六號ノ五ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

六 第二十九條第一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル證書帳簿

六ノ六 重要物資管理營團ノ重要物資管理營團法第十六條第一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル證書帳簿

六ノ七 帝國鑄業開發株式會社法中改正法律案

帝國鑄業開發株式會社法中左ノ通改正ス

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

二「此ノ場合ニ於テハ政府ハ千五百萬圓ヲ超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第二十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

二「此ノ場合ニ於テハ政府ハ千五百萬圓ヲ超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

二「此ノ場合ニ於テハ政府ハ千五百萬圓ヲ超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

二「此ノ場合ニ於テハ政府ハ千五百萬圓ヲ超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

二「此ノ場合ニ於テハ政府ハ千五百萬圓ヲ超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條第二項中「增加スルコトヲ得」ノ下フ

ム

同條第三項中「初營業年度及爾後五年間」

ヲ「第二十一營業年度迄每營業年度」ニ改

第三十六條 削除

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國燃料興業株式會社法中改正法律案
帝國燃料興業株式會社法中左ノ通改正
ス

第二條第二項中「増加スルコトヲ得」ヲ下ニ
ニ「此ノ場合ニ於テハ政府ハ五千萬圓ヲ
超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條 削除

第三十條第一項但書中「及當該營業年度
ニ於テ支拂ヒタル燃料興業債券ノ利息
額」ヲ「當該營業年度ニ於テ支拂ヒタ
ル燃料興業債券及借入金ノ利息額」ニ改
ム

第三十七條 削除

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣岸信介君登壇〕

○國務大臣(岸信介君) 只今議題トナリマ
シタ國民更生金庫法中改正法律案外四件ノ
提案理由ヲ説明申上ガマス

最初ニ國民更生金庫法中改正法律案ニ付
テ申上ゲマスガ、中小商工業ノ再編成ニ付
キマシテハ、豫ネテヨリ重點主義ニ依ル生
産増強、物資配給ノ圓滑正確化ヲ目途ト致
シマシテ、併セテ緊要產業部門ニ於ケル勞
務ノ充足ニ資スル方針ノ下ニ、企業ノ整理
統合ヲ實施シテ參ツタノデアリマス、此ノ
企業ノ整理統合ニ伴ツテ生ジマスル轉廢業
者ニ對シマシテハ、國民更生金庫ノ設置、
等諸般ノ施設ヲ講ジテ居ル次第アリマス
同業者ノ共助金ニ對スル國庫補助、其ノ他
國民職業指導所及ビ國民勤勞訓練所ノ設置
施設中其ノ中心ヲ成スモノニアリマシテ、

シマシテハ、國民更生金庫ハ、政府ノ轉廢業
等諸般ノ施設ヲ講ジテ居ル次第アリマス
ルガ、就中國民更生金庫ハ、政府ノ轉廢業
等諸般ノ施設ヲ講ジテ居ル次第アリマス
ス

第二條第二項中「増加スルコトヲ得」ヲ下ニ
ニ「此ノ場合ニ於テハ政府ハ五千萬圓ヲ
超エテ出資スルコトヲ得」ヲ加フ

第三條 削除

第三十七條 削除

附則

轉廢業者ノ資產及び負債ノ整理ヲ促進シ、
其ノ更生ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノニア
リマス、今後諸般ノ情勢カラ致シマシテ、急
速ニ企業ノ整理統合ヲ實施致サヌバナリマ
セヌ關係上、此ノ制度ノ利用ハ急増スルモ
ノト豫想セラレルノデアリマス、隨ヒマシ
テ國民更生金庫ノ現在ノ資本金等ヲ以テ致
シマシテハ、到底利用者ノ需要ニ應ズルコ
トハ困難デアリマスノデ、今回其ノ資本金
ノ增加ヲ圖リマスト共ニ、更生債券ノ發行
限度ヲ擴張致シマシテ、金庫ノ資金ノ充實
ヲ圖ラントスル次第アリマス、國民更生
金庫ハ從來大藏省ノ所管ニナツテ居ツタノ
デアリマスガ、之ヲ先般商工省ノ所管ニ移
スコトニ相成リマシタノデ、之ニ伴ヒマシ
テ本法中主管大臣ニ關スル規定ヲ改正ゼン
トスルモノニアリマス

次ニ帝國石油株式會社法中改正法律案ニ
付テ申上ゲマス、石油ノ供給ヲ確保致シマ
スコトガ我が國最大ノ急務デアルコトハ茲
ニ申スマデモアリマセス、帝國石油株式會
社ハ此ノ目的達成ノ爲メ、内外石油資源フ
開發促進上必要ナル事業ヲ經營スルコトヲ
目的ト致シマシテ昨年設立ヲ見タノデアリ
マスガ、今次大東亞戰爭ノ勃發ニ伴ヒマ
シテ、南方油田ノ開發經營ト云フコトハ刻
下ノ急務ト相成リマシタノデ、政府ニ於キ
マシテハ此ノ情勢ニ鑑ミ、國內ニ於ケル主
要石油鑄業者ヲ帝國石油株式會社ニ統合セ
シメ、以テ石油鑄業ノ一元化ヲ斷行シ、南方
進出ノ體制ヲ整備セシムルコトト致シタノ
デアリマシテ、之ニ對應致シマシテ本會社
ノ機構ヲ擴充整備致シマスルト共ニ、其ノ
資金調達ノ圓滑化ヲ圖ルコトが必要トナツ
タノデアリマス、仍テ副總裁一人ヲ二人ニ

増加致シマスルト共ニ、政府出資ノ限度ヲ
撤廢致シマシテ、且ツ帝國石油債券ノ發行
限度ヲ擴張シ、以テ是等ノ必要ニ備ヘント
致シタ次第アリマス

次ニ重要物資管理團法案ニ付テ申上ゲ
マス、御承知ノ通り我が國ニ於キマシテハ、
從前物資動員計畫ノ實施ニ關聯致シマシテ、
將來ノ需要ニ備ヘ、機會アル毎ニ特別輸
入、繩上輸入等ノ措置ヲ講ジ、所謂海外ヨ
リノ早期輸入ヲ極力實施シテ參ツタノデア
リマシテ、現ニ國內ニハ尙ホ相當多量ニ是
等輸入品ヲ保有致シテ居ル實情ニアリマ
ス、又重要物資ノ一般國内在庫ニ致シマシ
テモ、未ダ相當大量ニ貯藏セラレテ居ルノ
デアリマスルガ、我が國當面ノ情勢ニ於キ
マシテ、是等重要物資ノ國內在庫ニ付テ、
其ノ的確ナル管理運營ヲ講ジ得ル方策ヲ整
へ、進シテ在庫ニ増強措置ヲ講ジマスルコ
トハ、今後ニ於ケル南方ヨリノ取得物資ノ
高度利用ヲ圖リマズルト共ニ、本邦經濟今
後ノ運營上最モ緊要ナル方策ナリト認メラ
レルノデアリマス

又戰時下ニ於キマシテハ生產、配給又バ
運輸等ニ不時ノ障礙ヲ生ジ、是ガ爲メ物資
ノ供給ガ著シク不圓滑トナリ、或ハ戰局ノ
推移ニ依リマシテ一時ニ非常ニ多量ノ物資
ヲ要スル等、不測ノ事態發生ノ虞モ考へ得ラ
レマスルノデ、工業用各種原材料、生活必
需品、防空用資材等ノ各般ニ瓦リ、是等ヲ
綜合シテ地域別分散保管ノ計畫ヲ立テ之
律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、今次
大東亞戰爭ニ依リマシテ、我ガ國ハ豊富ナ
ル南方石油資源ヲ獲得シ得ル情勢ト相成ツ
タノデアリマスガ、之ニ依ツテ國內ニ於ケ
ル人造石油事業ノ重要性ハ聊カモ減ズルコ
トハナインデアリマシテ、寧ロ今後益々此ノ
振興ニ努力ヲ傾注セヌバナラヌ情勢ニアル
ト考ヘル次第アリマス、而シテ人造石油
事業ヲ振興致シマス爲ニハ、其ノ事業ノ
性質上、資金ノ調達ニ特別ノ措置ヲ講ジナ

次ニ帝國鑄業開發株式會社法中改正法律
案ニ付テ御説明ヲ致シマス、大東亞戰爭ノ
勃發ニ伴ヒマシテ、國內ニ於ケル金屬資源
開發ノ必要性ハ愈々增大致シテ參リマシタノ
デ、其ノ開發ノ國策機關タル帝國鑄業開發
株式會社ノ事業モ、此ノ際一段ト擴充スル
必要ヲ見ルニ至ツタノデアリマス、斯カル
情勢ニ鑑ミマシテ、現在本會社ノ資本金三
千萬圓中、政府出資額ハ其ノ半額タル千五百
萬圓ニ限定セラレテ居リマスノヲ、今後同
社ガ增资ヲ行ヒマス場合ニハ、右ノ千五百
万圓ノ制限ヲ超エテ出資ヲナシ得ルコトト
シ、併セテ民間所有株ニ對スル配當供給ノ
限度ヲ現在ノ年百分ノ四カラ年百分ノ六ニ
引上げ、且ツ其ノ支給期間ヲ第二十一營業年
度マデ延長スルコト致シマシテ、兩々相
俟ツテ同會社ノ資金調達ヲ容易ナラシメ、
以テ重要鑄物增產ノ使命ヲ達成セシメント
スル次第アリマス

次ニ帝國鑄業開發株式會社法中改正法律
案ニ付テ御説明申上ゲマス、最後ニ帝國燃料興業株式會社法中改正法律案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、今次
大東亞戰爭ニ依リマシテ、我ガ國ハ豊富ナ
ル南方石油資源ヲ獲得シ得ル情勢ト相成ツ
タノデアリマスガ、之ニ依ツテ國內ニ於ケ
ル人造石油事業ノ重要性ハ聊カモ減ズルコ
トハナインデアリマシテ、寧ロ今後益々此ノ
振興ニ努力ヲ傾注セヌバナラヌ情勢ニアル
ト考ヘル次第アリマス、而シテ人造石油
事業ヲ振興致シマス爲ニハ、其ノ事業ノ
性質上、資金ノ調達ニ特別ノ措置ヲ講ジナ

ケレバナラナイノデアリマシテ、政府ハ帝國燃料興業株式會社ヲシテ之ニ當ラシメテ參ツタノデアリマスガ、今後ニ於ケル人達石油事業ノ擴充計畫ニ對應致シマシテ、本會社ガ增資ヲ行ヒマス場合ニハ、政府ハ現在ノ出資額タル五千萬圓ヲ超エテ出資ヲナシ得ルコト致シマスト共ニ、同社ニ對スル配當、補給金ノ範圍ヲ擴張セントスル次第デアリマス。

以上ガ今回國民更生金庫法中改正法律案外四件ヲ提出致シマシタ理由デアリマス、何卒慎重御審議ノ上、御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス(拍手)。

○議長(田子一民君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——喜多壯一郎君

(喜多壯一郎君登壇)

○喜多壯一郎君 日程第四ノ重要物資管理營團法案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第一ハ、重要物資ハ一體何ヲ指

シテ居ルカ、又其ノ管理貯藏サレル重要物資ノ數量ニ關スルコトデアリマス、本法案

ニ依ル營團ガ扱フデアラウト豫想サレル重

要物資ハ、今日ノ戰時日本ニ於テ、軍官民

ノ三方面デ何レデモ無クテハナラストスル

特殊ナ重要性ヲ持ツ物資ト解釋スベキデア

リマスガ、ソレニハ無論軍需品生產擴充ニ當ルベキモノ、或ハ只今ノ提案理由ノ説明

ノ中ニモアツタヤウニ、醫療藥品カラ廣ク

戰時國民生活確保ニ缺クベカラザル衣食住

ノ全面ニ瓦ルモノモ賞然含マレテ來ルノデ

スカラ、場合ニ依ツテハ浴衣地モ、或ハ木綿ノ一片ニ至ルマデ重要物資ノ申ニ解釋セ

ラレルト吾々ハ考ヘルノデアリマス、又空

龜其ノ他ノ戰時的災害ニ對スル復興資材ナ

ドモ此ノ申ニ含マレルト解釋シ得ルノデ

アリマスカラ、本法案ニ謂フ所ノ重要物資ハ、戰時下日本ニ於ケル物資全體ヲ意味ス

ルヤウニ當然解釋サレテ來ル、而モ其ノ貯

藏ヲ確保スルコトソレ自體ガ、當然國家的

管理ヲ必要トスルコトニ付テハ、日本ノ現

狀カラシテモ吾々ハ能ク理解シ得マス、ソ

コデ此ノ營團ガ扱フベキ物資ハ、原料デア

ル物、素材デアル物、ソレハ無論ノコト、

或ハ既製品デアラウト、半製品デアラウト、

未完成品デアラウト、差別ナク此ノ申ニ舍

ムノデアルカドウカ、法案及ビ提案理由ニ就テハ吾々ハ知ルコトガ出來ナイ、此ノ點ニ付テノ答辯ヲ求メタイ、言フマデモナク、

同僚西川君ガ指摘シマシタガ、食糧品ハ戰

時ニ於テノ最モ重要物資中ノ重要物資デア

リマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第五ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第六ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第七ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第八ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第九ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十一ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十二ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十三ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十四ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十五ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十六ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十七ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十八ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第十九ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十一ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十二ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十三ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十四ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十五ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十六ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十七ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十八ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第二十九ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十一ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十二ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十三ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十四ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十五ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十六ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十七ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十八ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第三十九ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四十ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四十一ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四十二ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四十三ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三基本的ナ點ヲ質疑致シマス、政府特ニ商工大臣ノ答辯ヲ

求メマスガ、許サレタ質疑時間ハ僅少デアリマスカラ、勢ヒ質疑項目ヲ列舉スルコトニナラザルヲ得マセヌガ、政府當局ハ十分

希望シテ已ミマセヌ質疑ノ第四十四ハ、重要物資管理營團法

案ニ付キマシテ、二三

此ノ營團が出來テ來テ、愈、營團ト云フ大キナ車ガ日本ノ物動計畫ノ中ニ運轉サレテ來ルト、ソコニハ私ハ中々高イ能率ヤ綜合理論化サレタ經營ハ生レテ來ナイト思フ、相當以上ノ無理ト相刺摩擦ト、ソレニ加ヘテ役所的ノ下手ニ仕事ト、煩雜極マル手續トガキツト拔扈シテ來マス(拍手)一言ニシテ言ヘバ、折角作ツテハ見タガ、非能率的ナ經理運用ガ現ハレテ來ルト云フコトガ豫想サレル、支那車變前後カズ、戰時日本ノ統計計畫經濟運用ノ爲ニ同僚西川君其ノ他ガ指摘シタヤウニ、今日マデニ政府ハ隨分澤山ノ國策會社ト營團トヲ作ラメシタ、併シソレ等ノ國策會社ト營團トヲ私ハ此處テ指摘スル時間ヲ能率ガ低クテ、折角作ツタ官僚其ノモノ——アナタ方自體デサヘモ手ヲ焼イテ居ルモノガ多々アルコトヲ私ハ此處テ指摘スル時間ヲ持チマセヌガ(拍手)ソレ等ノ營團ヤ國策會社ニハイツモ官僚ノオ手盛リニ依ル天降り人事ガ白晝公然トシテ跋扈シテ居ルノデアリマス(拍手)私ハ必ズシモオ手盛リノ人事ガ悪いト言フノデハアリマセヌ、其ノ人事ガオ役所的デアルト同時ニ、體驗ト苦勞ト信念ト理想トヲ持タナイ者ガ天降リニナルカラ國家ノ損失大ナリト云フコトヲ商工大臣ニ御認識ヲ求メタインデアリマス(拍手)國民ハ今日實ハ得體ノ知レナイ營團、國策會社ノ濫造、氾濫時代ニ一種ノ公憤ヲ抱イテ居リマス、戰時デアリマスカラソレヲ公ニ暴露致シマセヌ(ヒヤー)私ハ官ニアツテ民間ノ事情ニ疎イ政府當局ノ諸君ト雖モ、商工大臣ノ如キハ、此ノ間ノ實情ニ付テハ比較的の能ク分ツテ居ル方ダト信ザルヲ得ナイ、而モ其ノ方ガ敢テ此ノ營團組織ヲ物動計畫ノ一部門ニマデ擔ギ込ンデ來タト云フ

コトニ付テハ、政府ノ無反省ト現狀認識ノ不足トヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)而モ此ノ營團ノ構成人員ニ付テ検討スルト、理事長、副理事長及ビ理事ハ、原則トシテ他ノ職業ニ從事スルコトガ禁ゼラレテ居リマス、即チ此ノ營團ハ業務カラ一厘一毛ノ收益サヘモ期待シテハ居ナイノデアリマス、物動計畫ノ大キナ一部門デアリ、構成人員ハ進官吏的デアリ、而モ營利法人ト全ク違ツテ收益ヲ期待シテ居ナイト云フ此ノ三點カラ見テモ、私ハ何故ニ營團形態ヲ此ノ管理營團ニ採ラレタカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイ、ソレノミカ條文ヲ検討シマスト、本營團ハ「必要アリ認ムルトキハ業務ニ關シ重要物資ヲ所有又ハ保管スル者ニ對シ其ノ所有又ハ保管ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得」トナツテ居リマス、又主務大臣ノ認可サヘ受ケレバ、役員又ハ職員ヲシテ前項ニ掲グルモノノ專務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨ミ、帳簿、書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得ル、之ヲ拒シングモノハ當然物資統制令ニ依ル國家ノ強權ニ依ツテ罰セラレルト云フ大キナ力ガ營團ニ興ヘラレルノデアリマスカラ、此ノ營團ハ名前ヨソ營團デアツテモ、私ハ純然タル國家代行権關係アルト認識セザルヲ得ナイノデアリマス、前ニ述ベマシタヤウニ營團ハ戰時物動計畫ノ大仕事ヲヤル、隨テ國家機密ニ參畫スル、ダカラ其ノ構成人員ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ許サズト立案セラレタト考ヘル、當然是ハ國家企業トシテ、戰時物資省或ハ軍需省タルノ性能ヲ持ツ商工當局自體ノ一つノ仕事トシテ經營サレタ方ガ、マダ國民ハ安心シテ任セ得マス、私ハ商工當局が斯様ナ自信ト自覺

トヲ持ツテ居ラヌカト云フコトヲ一言問ヒ
質シテ置キタイ、何故ニ國家企業ト國策會
社トノ中間的企畫形態デアル營團組織ヲ採
用セラレタカ、其ノ理由ヲ明確ニ示サレタ
イ
質疑ノ第三ハ、何故ニ既存ノ物資統制機
關ヲ利用シナイカト云フ點デアリマス、今
日重要物資ト考ヘラレルモノハ其ノ大半ガ
既ニ統制機關ニ依ソテ生産、配給セラレル
ヤウナ狀態ニナツテ居ルコトヘ例ヘバ石炭
ニ付テハ日本石炭會社、「ボーキサイト」、
「アルミニウム」、「マグネシウム」ニ關シテ
ハ帝國輕金屬統制會社、紡綿即チ紡績、綿
布ニ付テハ棉花共同購入組合、羊毛ニ關シ
テハ羊毛同業會、纖維製品ニ付テハ商品別
統制機關ト云フ風ニ、モウ既ニ立派ナ統制
機關が出来テ居ルノデスカラ、商工大臣ハ
之ヲ能ク指導シ、能ク鞭撻シテ、縱ニ横ニ
良い連絡ヲ付ケテ行カレルナラバ、私ハ斯
様ナ厖大ナ營團ヲ作ラズシテモ、ソコニ重要物
資統制ニ關スル貯藏、保有ト云フ力ガ生レテ
來ハシナイカト考ヘルノデアリマス(拍手)
徒ラニ新シイモノヲ作ツテ世ノ中ヲ迷ハス
コトハ、戰時下日本ニ於テハ斷然避ケナケレ
バナラナイト信ジマス(拍手)
質疑ノ第四ハ、本法案成立ノ場合、法律ノ
施行地域ト營團ノ事業地域が明確ニ示サレ
テ居リマセヌ、内地ダケニ適用ナサル積り
カ、外地ニモ及ボス積りカ、或ハ内地ダケ
ダトスルナラバ、外地ニ對シテハ重要物資
貯藏保有ニ關シテハ別段ノ手段ヲ執ルノ意
圖ナキカノ點デアリマス、説明理由ハ申上
ゲマセヌ

ノ交易關係如何ト云フコトデアリマス、自由的ナ通商交易ハ許サレナイト云フ輪廓ガ政府カラ示サレテ居リマスガ、恐ラク此ノ營團ガ南ノ方カラ來ル所謂重要物資トノ交易中心機關トナルト思フノデアリマスガ、此ノ營團トノ關係ヲ示サレタイ、及ビ此ノ營團ト他ノ貿易統制機關トノ關係如何ト云フ點デアリマス

質疑ノ第六ハ、何故ニ此ノ營團ニ對シテ監理官制度、監察官制度ヲ設ケマセヌデシタカ、其ノ理由如何、是ハ商工大臣ハ特ニ明確ナ答辯ヲシテ戴キタイ、營團ノ職能身體ト、營團ノ眼目トスル所ガ戰時物動計畫ノ完璧ヲ期スルコトデアリマス、ト同時ニ戰爭完遂ニ對シテ物資ヲ通ジテ直接ニ戰爭ノ能力ニ影響スルダケノモノデアリマスカ、國家機密ニ參畫セシムルト同時ニ、物資統制令ニ依ル強權行使ヲ敢テ許シテ居ルノデアリマス、斯様ナ重大ナ營團ニ對シテ國家企業トセズ、單ニ主務大臣ノ指揮命令ニ依ルト云フコトデアツテ、其ノ機成人員ハ他ノ職業ニ從事スルコトヲ許サレナイト云フ程一方デハ嚴格ニシテ置キナガラ、政府當局ガ之ニ向ツテ監理、監督、監察ヲスルト云フ、點ニナリマスト、營利法人ノ監理、監督ト紙一重ノ微弱サデアルト云フコトヲ私ハ斷然指摘セザルヲ得マセス、此ノ點ニ關シテ政府ハ十分ニ監督監理スル必要ガアルト思ヒマスガ、現行制度ノ各般ヲ見マスト、斯カル國家代行機關ニ對シテハ常ニ監理官制度ガ十二分ニ設ケラレテ居ルニモ拘ラズ、政府ハ十分ニ監督監理スル必要ガアルト思ヒマスガ、現行制度ノ各般ヲ見マスト、斯カル提案理由ニモ私ハ伺ヒマセヌデシタ、遺憾千萬ナ點デアリマス、ソレデナクトモ官吏ノ綱紀肅正ニ付テハ益、國民ガ諸君ニ懇ヘ

ントスル時アリマスカラ(拍手)此ノ點ニ付テハ十二分ノ用意ヲナサレテ、若シ法文ニ其ノ用意ガナケレバ、今日カラデモ改メテ用意ナサツテ委員會ニ臨マレンコトヲ私ハ衷心希望シテ置キマス(拍手)

最後ニ政府當局ノ意向ヲ尋ねタインデアリマスガ、本法案ニ依リマスト、管理營團物動計畫ハソレマデ寢テ居リマセヌ、今モ切ツテ司法大臣ト相談シテ、全國ノ營業倉庫ト私有倉庫ノ全體ニ至ルマデ在庫品調査、物ノ戶籍調ヲ一ツヤツテ御覽ナサイ、出テ來マスヨ、出シタイガ出セナイト云フ人モアル、其ノ點ハ政府ノ規則ガヤカマシクテ、ツイ登録モ出來ナカツタト云フヤウナモノハ、商工大臣ハ無論眼ヲ瞑ルダラウガ、司法大臣モ其ノ場合ニハ胸ニ手ヲ當テテ、物ヲ活カスト云フ點デ一ツ何トカスル便法ガアリハシマセヌカ(拍手)是ハ「ゼスチニア」デハアリマセヌ、實質ガ出テ來ル、此ノ點ニ付テ私ハ斯様ニナツタ點カラ見テ、此ノ營團ガ動ク前ニ、全國一齊ニ國民ガ物ヲ出スト云フ此ノ戰時下ニ對スル信念ヲ、一齊倉庫検査ニ依ツテ喚起サレンコトヲ希望スルノデアリマス、以上重要ナル答難ヲ願ツテ私ノ質疑ヲ打切りマス(拍手)

(國務大臣岸信介君) 御答ヘヲ申上ゲマ

ス、第一ノ御質問ハ、本營團ガ取扱フベキ重要物資ノ意義竝ニ其ノ數量等ニ對スル御質問デアリマシタ、本營團ノ提案理由ハ先程御説明申上ガシタ通りデアリマス、隨ヒマシテ本營團ガ取扱フベキ物資ハ、戰時經濟運營上緊要ナル軍官民各方面デ需要致マス、戰爭ハソレマデ待ツテ居リマセヌ、物動計畫ハソレマデ寢テ居リマセヌ、今モ動イテ居リマスカラ、開始前ニモ臨時措置ハ謹ゼラレテ居ルト思ヒマスケレドモ、ドウデスカ、一ツ此處ニ商工大臣ハ思ヒウデスカ、一ツ此處ニ商工大臣ハ思ヒ切ツテ司法大臣ト相談シテ、全國ノ營業倉庫ト私有倉庫ノ全體ニ至ルマデ在庫品調査、物ノ戶籍調ヲ一ツヤツテ御覽ナサイ、云フコトニ相成リマスルガ、具體的ニハ法案ニ示シテ居リマスヤウニハ命令ヲ以テ其ノ内容ヲ具體的ニ定メル考ヘデアリマス、勿論物資トハ御指摘ノ如ク單ニ製品、半製品等ニ限ラズ、凡ユル原材料ノ形デアリマスモノヲモ含ム譯デアリマス、唯農林關係ノ物資ニ付キマシテハ、主要食糧ハ勿論、大體特殊ノモノ以外ハ之ヲ含マナイ考ヘデアリマス、數量ノ點ハ、御意見ノ通り我ガ國ノ物動計畫ト極メテ緊密ナ關係ガアルノデアリマシテ、今日此ノ席ニ事業計畫ノ豫想ヲ申上ゲルコトハ適當デナイト思ヒマスノデ、他ノ適當ナル時機ニ出來ルダケ詳細ニ申上ゲタイト考ヘマス

第二ノ御質問ハ、本營團ノ事業ノ性質ヲ考ヘルニ、其ノ性格ハ政府ノ代行機關ト考ヘラレルノデ、寧ロ斯ウ云フ營團ノ形式ヨリモ、政府自ラ之ヲ行ヒ、特別會計ノ形式ヨリ採ルコトガ適當デハナイカト云フ御意見デアリマシテ、一應御尤モナ御考ヘダト思ヒマス、唯此ノ營團ガ取扱フ所ノ物資ハ、ニ瓦リ相當複雜多岐ニ瓦ツテ居リマス、又保管ノ方法等ニ付キマシテモ、種々専門的

知識ヲ要スルモノト思ヒマスシ、獲得ノ方法ニ付キマシテモ國內ハ勿論、輸入、特ニ南方方面ヨリノ物資モ之ヲ含ム譯デアリマシテ、今日ノ官廳機構ノ性質カラ見マシテ、サウ云フ複雜ナ而モ専門的ナ才能ヲ必要トスル仕事ヲ、特別會計ノ形式デヤルコトハ能率的デナイト考ヘマシテ、營團ノ形式ヲ採ツタ次第デゴザイマス

第三ニ斯ウ云フ仕事ハ既存ノ綿制機關ガアルカラ、ソレヲ利用シタラ宜イデハナイスト、凡ユル物資ガ觀念上入り得ル、斯ウ云フコトニ相成リマスルガ、具體的ニハ法案ニ示シテ居リマスヤウニハ命令ヲ以テ其ノ内容ヲ具體的ニ定メル考ヘデアリマス、勿論物資トハ御指摘ノ如ク單ニ製品、半製品等ニ限ラズ、凡ユル原材料ノ形デアリマスモノヲモ含ム譯デアリマス、唯農林關係ノ物資ニ付キマシテハ、主要食糧ハ勿論、大體特殊ノモノ以外ハ之ヲ含マナイ考ヘデアリマス、數量ノ點ハ、御意見ノ通り我ガ國ノ物動計畫ト極メテ緊密ナ關係ガアルノデアリマシテ、今日此ノ席ニ事業計畫ノ豫想ヲ申上ゲルコトハ適當デナイト思ヒマスノデ、他ノ適當ナル時機ニ出來ルダケ詳細ニ申上ゲタイト考ヘマス

次ニ本法ノ適用地域ニ付キマシテハ、一應内地ダケニ之ヲ適用スルモノト考ヘテ居リマス、唯此ノ營團ガ取扱フ所ノ物資ハ、入其ノ他ノ事業ヲ内地以外ノ外地、又ハ外國ニ於テ行ヒ得ルコトハ勿論デアリマスガ、法律自體ノ適用トシテハ内地ノミニ考ヘテ居リマス

次ニ南方地域トノ交易關係ニ付テノ御質問デアリマシタガ、今日ノ狀態ハ申スマデモナク作戰ト緊密ナ關係ノ下ニ、軍政ヲ布

カレテ居リマシテ、其ノ軍政下ニ於テ臨時的措置トシテ機構ガ設ケラレテ居リマス、此ノ南方地域ト我國トノ交易關係ハ、當然其ノ段階ニ適應シイ形ニ於テ調整ヲサレテ參ルベキモノト考ヘルノデアリマス、サウ云フ際ニ此ノ設ケラルベキ營團ガ重要ナル働きヲナスニ至ルベキコトハ、今日カラ私共之ヲ豫想致シテ居リマス

次ニ監理官制度ヲ設ケザル理由ニ付テノ御質問デアリマシタガ、本營團ノ使命機能等ニ鑑ミマシテ、嚴重ナル國家監督ノ下ニ其ノ業務ヲ行ハシメルコトハ當然デアリマス、併シナガラ一面ニ於キマシテ理事者其ノ他ノ之ヲ運營スル人々ガ、自治的ニ責任ヲ自ラ持ツテ其ノ業務ニ當ルト云フコトヲ、小サイ事柄ニ至ルマデ政府ノ干渉ニ依ツテ妨げルト云フコトモ、十分考慮セネバナラナイト思ヒマス、本法ニ於キマシテ營團ノ大綱ニ付キマシテハ嚴重ナル監督ノ下ニ置クコトニ致シマシテ、其ノ範圍内ニ於テ理事者其ノ他ノ此ノ營團ヲ運營スル者ノ責任ト創意トニ依ツテ、十分國家的使命ヲ果シテ貰ヒタイト云フ意味ニ於キマシテ、其ノ制度ヲ設ケナカツタノデアリマス、此ノコトニ付キマシテハ、既ニ前々議會ニ於テ御協賛ヲ得マシタ産業設備營團ニ於キマシテモ同様ナ取扱フ致シテ居リマス

最後ニ本營團ガ重要物資ヲ保有管理致シマスルニ付キマシテ、國內ニ於ケル在來ノ在庫調査、之ニ關聯シテ在庫ノ生ジタ理由ニ遡ツテ之ヲ一々檢舉スル等ノ方法ニ付テ、司法當局ト協議ノ上、特別ニ取扱フ必要ハナ

ヲ出来ルダニ澤山ニ保有致シマシテ、之ヲ
國家有用ノ方面ニ活用シヨウトルニアル
ノデアリマス、隨ヒマシテ其ノ保有ヲ確保
シマス前提トシテ、全國ニ亘ツテ詳密ナル
在庫調査ヲ行フ考ヘデアリマス、其ノ際ノ
調査ハ犯罪拠点ノ意味ニ於ケル調査デナイ
コトハ言フヲ俟タナインデアリマス、此ノ
調査若クハ讓受ト云フコトヲ契機トシテ犯
罪ノ拠点等ヲ開始スルコトハナイト云フ方
針ニ付キマシテハ、司法當局トノ間ニ打合
セ濟ミデアリマス、以上御答へ致シマス
(拍手)
○議長(田子一民君) 岡崎久次郎君
(岡崎久次郎君登壇)
○岡崎久次郎君 只今提案サレテ居リマス
重要物資管理營團法案ニ付テ簡単ニ御質問
ヲ申上ゲタノイデアリマス、本案ハ書キ出
シハ非常ニ大キナ書キ出シデアリマスルガ、
資本金ハ二千万圓デアリマス、サウシテ他
ノ營團ニハ悉ク社債等ノ發行權ガアリマス
ルガ、本案ニハゴザイマセヌ、要スルニ資
本金二千万圓ノ管理營團デアルト云フコト
ヲ先づ前提ニ御承知ヲ願ヒタヒノト、其ノ
目的ハ重要物資ノ輸入、買入、保有及ビ利
用ヲ有效満切ナランム目的デアリマス
カラ、其ノ目的ハ非常ニ大キノイデアリマ
ス、同時ニ必ズヤ本案ノ關聯スル所ノ南方
開發金庫法案、是ハ申スマデモナク一億圓
ニシテ、十億ノ社債ヲ發行シ得ル、又戰時
金融金庫法案、是ハ三億デ、三十億ノ社債
ヲ發行シ得ル、此ノ二大法案が既ニ提案サ
レテ居ルノデアリマス、本案ハ其ノ間ニ於
テ非常ニ小規模ノ案ニ見エルノデアリマス
ルガ、此ノ南方開發ト戰時金融トノ關係ヲ
必ず持ツモノデアルト云フコトハ、法案ソ
レ自身ガ能ク説明ヲシテ居リマス、是レ故
ニ相當大キナ案トシテ取扱ヒ、慎重ニ此ノ
問題ニ付テ數箇ノ質問ヲ申上ゲテ見タイト
思フノデアリマス

(拍手)は是ハ詳シイ説明ヲ申上、ゲルコトハ殆ド不要デアリマス、歐米ノ船ガ悉ク東亞カラ撤退シタ今日、我ガ國ガ大ナル造船計畫ヲナシ、大ナル運輸計畫ヲ立テナケレバナラヌコトハ萬人ノ認ムル所デ、政府モ恐ラク此ノ點ニハ最大ナル考慮ヲ拂ツテ居ラレルニハ違ヒナイト信ジマス、併シナガラ今回提案サレタ八十何件ノ法律案ニ於テ是ガ現ハレテ居ナイノハドウカト云フコトヲ聽キタインデアリマス(拍手)甚ダ遺憾ト存ジ、隔靴搔痒ノ感ガナインデモナイト思ヒメジ、皆君支障ト付ニハ、我國ハヤシテ莫

サレテ居ル物資ガ澤山アルト商工大臣ハ仰
シヤイマシタガ、是ハ知ツテ居リマスルガ、更ニ今後戰局ノ推移ニ從ヒ東亞ヨリ多クノ
物資ヲ輸入シ、買入レナケレバナラヌ我力
國ノ立場ニアルト存ジマス、ソレハ「ゴム」
ニシロ、麻ニシロ、又其ノ他ノ軍需以外ノ
平和産業ニ於テ、「コプラ」デアルトカ、或
ハ椰子ノ實デアルトカ、凡ニル物資ガ南洋
ニ產出セラレルノデアリマスカラ、物資ハ
極メテ多種多様デアリ、又數量モ多イトイ思
ヒマス、此ノ物資ノ輸入、保管、買入等ヲ
此ノ營團ガヤルノデアリマスガ、同時ニ之
ヲ國內ニ思切ツテ消費サセル方法ヲ執ラナ

品物ガアルノデアリマス、日本ノ中小工業者ニイレツテ產出サレル種々ナル雜貨ニ言フ雜貨デアリマスガ、雜貨ノ種類ハ多種多様デアリ、又必ズ彼等ガ多ク需要スル物デアリマス、輸出ト云フト、即時ニ綿絲、綿布ヲ考ヘラレルノデアリマスガ、綿絲、綿布以外ニ幾多ノ物資ガ東亞共榮圈内ニ輸出サレマス、而モ向フカラ五億モ六億モノ澤山ノモノヲ買フノデアリマスカラ、其ノ一部ヲ輸出ラシテ、反對ニ供給ヲスルコトヲ考ヘナケレバ、軍票ナリ、金ノミヲ永久ニ出シテ行クコトハ到底不可能ダト思フノデアリマス、而モ彼トシテハ絶對ニ要ル

品物がアルノデアリマス、日本ノ中小工業者ニ依ツテ産出サレル種々ナル雜貨ニ言フ雜貨デアリマスガ、雜貨ノ種類ハ多種多様デアリ、又必ズ彼等ガ多ク需要スル物デアリマス、輸出ト云フト、即時ニ綿絲、綿布ヲ考ヘラレルノデアリマスガ、綿絲、綿布以外ニ幾多ノ物資ガ東亞共榮圏内ニ輸出サレマス、而モ向フカラ五億モ六億モノ澤山ノモノヲ買フノデアリマスカラ、其ノ一部ヲ輸出ヲシテ、反對ニ供給ヲスルコトヲ考ヘナケレバ、軍票ナリ、金ノミヲ永久ニ出シテ行クコトハ到底不可能ダト思フノデアリマス、而モ彼等トシテハ絶対ニ要ルノデアリマス、此ノ輸入物資對策、是ノ利運用活用ト、中小工業者ノ爲メ澤山ノ輸出ヲ考慮シテ行クコトが非常ニ重要ナ問題デアル、是ハ同時ニ勞力輸出デアルト思フノデアリマス、此ノ重要ナル關係ヲ、第一、第二ヲ一括シテ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス

ツテヤチナケレバナラヌ、捲ヘタモノヲ買
ニ賣ツテヤルト云フヤウナ、相互ニ榮エル
考ヘヲ持ツテ行クニハ、此ノ資本金ハ餘リ
ニ寡小デアルト思ヒマス(ヒヤ／＼、指手)
第四ニハ職員ノ構成デアリマス、是ハ先
程農業關係法案ノ問題ニ於テ喜多君カテモ
色々言ハレマジタノデ、私ハ深ク此ノ問題
ヲ申上ゲタクハナイノデアリマスガ、斯ウ
云フ營團ノコドデ、今後是ハ大イニ利用、
活用シナケレバナラヌ重大ナル責任ヲ持ツ
營團ノコトデアリマスノデ、ドウカ從來ノ
商工省ノ囚ハレタ考ヘデナク、一ツ有兵瀬
達ノ人ヲ營團ノ總裁ニシテ戴キタイトと思
フ、商工大臣ハ幸ヒニ壯年氣鋭ノ人デアリ、
一ツ若イ大臣デアリマスガ、一ツ總裁ハ私
ノヤウナ餘り聳碌シタ爺サンヲ持ツテ來ナ
イヤウニシテ戴キタイ、此ノコトヲハツキ
リト申上ゲテ置ク、ゾレハ何故デアルカト云
フノミ、吾々ノ時代ノ人、五十、六十ト云
フヤウナ人ハ、既往ノ歐米資本系統ニ囚ハ
レテ居リ、從來ノ教育がソレデ來テ居ル、
ソレデハイカスト思フ(ヒヤ／＼、拍手)是ハアチ
タノ御考ヘモ同ジデアルト私ハ信ズル、私
ハ商工省ニ獨善的觀念ガアツクカドウカ知
リマセヌガ、過去ニ於テ兎角獨善的デアリ、
兎角我儘デアツクト人ガ言フノデアリマス
カテ、若シサウ云フコトガ本當ニアツダト
スレバ、是ハ一ツ思ヒ切ツテ擲シテ、今
日デハ大東亞共榮圈ト云フ、全然從來ノ機
構ト違フ、大キナ／＼非常ニ大キナ計畫經
濟デアリ、同時ニ商工省ハ大東亞經濟省デ
アル筈デアリマス、日本ノ商工省デハアリ
マセヌ、アナタハ日本ノ商工大臣デハアリマ
セヌ、大東亞共榮圈ノ經濟大臣デアツテ、
重キヲ置ク人デアル、其ノ人が幸ニ壯年氣
銳デアルノデアリマスカラ、思ヒ切ツテ職
員ハ公平無私ニ構成サレタイ、是ハ私決シ

テ言フ弄スルノデハナイ、非常ニ重大チ任務ヲ有スル營團ニアリマスカラ、ドウマニ開發金庫法案、又重要物資管轄營團法案戰時金融金庫法案等ト、三位一體トナルヤニシ一一人ニシロトハ言ヒマセヌ、三人ニヤツテ行クヤウニ組織シテ貰ヒタイ、特ニ私ガ之ヲ注意スルノハ、南方開發金庫法案、或ハ戰時金融金庫法案等ハ非常ニ大キ云フヤウナ權限争ヒヲシナイヤウニ、上手ニヤツテ行クヤウニ組織シテ貰ヒタイ、特ニ私ノ關係ヲ密接ニシテ不可分ノ關係ニ置イテ、三位一體ノ行動ヲ執ツテ行カナイト、ソレデ是ハ商工省ハ大藏省ニ壓迫サレルヤナ會社ニアリマシテ、サウジテ是ハ大藏省ノ管轄デアリマス、此ノ營團ハ非常ニ重要物資ノ管轄デアルガ、商工省ノ管轄デアリマス、ソレデ是ハ東亞共榮圈ノ共ニ榮エルト云フコトニ相成ラヌト思フ、此ノ點ハ能ク御承ダト思ヒマスガ、特ニ念テ押シテ此ノ席カラ御願ヒヲ申上ゲテ置キマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)。

(國務大臣岸信介君登壇)

○國務大臣(岸信介君) 御答ヘヲ申上ゲマス、第一ノ船ノ問題ニ付キマシテハ、遞信大臣ヨリ答辯ガアリマス、私ハ第二ノ質問以下ニ付キマシテ御答ヘヲ致シマス、將來南方方面ヨリ多量ノ重要物資ガ輸入セラレルニ付テハ、是ガ保管ノミニアラズシテ、是ノ利用活用ヲ圖テナケレバイカスト云フ御者ヘニ付キマシテハ、全然昔々モ左様ニ考ヘテ居リマス、唯現在ノ狀況ニ於キマシテハ、初メニ御指摘ニナリマシタ如ク、輸送ノ狀況等ノ點モアリマスシ、又現地ニ於ケル現在ノ作戰ノ段階カラ申シマシテ、直チニ大量ノ物資ガ輸入セラレ、才ヲ利用活用シテ、國內一般ノ需要ニ充ツルト云フヤウチ事柄ニ付キマシテハ、遺憾ナガト現在ノ状況ニ於キマシテハ直グト云フゴトニハ參ヌスト思ヒマス、併シナガテ將來は等ノ物資ガ、軍需生産力擴充ハ勿論ノコト、一般民

需等ニ對シマシテモ、十分利用活用セラル
ルヤウニ考慮シテ參ヲナケレバナラヌト秋
モ考へテ居リマス、唯此ノ營團自ラサウ云
フ仕事ヲサセルコトハ適當デナイト思フノ
デアリマシテ、此ノ營團デ保管サレテ居リ
マスモノガ、一定ノ政府ノ計畫ニ基イテ、
ソレハノ從來ノ企業産業者等ニ渡サレマ
シテ、ソコデ利用活用ノ途ガ講ゼラル
トニ相成ルト思フノデアリマス

次ニ是等ノ地域ニ對シテハ纖維品、其ノ他
一般雜貨等相當多量ニ輸出シテ、是等地
域ノ一般民衆ノ生活ノ安定ニ資シ、其ノ他
向ブヨリノ物資ノ獲得ニ資セナケレバナラ
ヌコトハ御說ノ通りニ考へテ居リマス、ソ
レニ付ギマジテ、我ガ國ノ中小工業ガサウ
云フ輕工業ノ生產ニ付キマシテ、從來獨特
ノ特長ヲ持ツテ居ル、之ヲ十分活カシテ行
クベキデアルト云フ御考ヘモ全然同感デア
リマス、今日私共ガ中小商工業ノ整理統合、
所謂再編成ヲ行ツテ居リマスルガ、是ハ御
承知ノ通り、一面ニ於キマジテハ國防經濟
ヲ急速ニ樹立スル爲ニ、我ガ國産業ノ重點
主義ヲ強化スルコトカド已ムヲ得ナイ點ニ
出テ居リマスルシ、又從來是等中小商工業
ノ一面ニ於テハ特長モアルガ、一面ニ於テ
ハ缺點トシテ居ル所ノ企業ノ濫立、若クハ
非常ニ非能率的デアルト云アヤウナ事柄ニ
對シマシテ、合理的ナ改善ヲ加ヘル基礎トシ
シテ之ヲ整理統合スル必要ガアルト考へテ
居ツタノデアリマスルガ、此ノ必要ハ依然
トシテアルト思ヒマス、併シナガラ徒ラニ
中小工業ナルガ故ニ全部再編成シテ、サウ
シテ他ノ方へ轉業セシメルト云フヤウナ考
ヘハ、從來モ持ツテ居ラナカツタノデアリマ
スルガ、斯ウ云フ情勢ニアリマシテ、輸
出産業等ニ於テ中小商工業ノ持ツテ居ル特
長ハ、今後十分ニ活カシテ行ケヤウニ考ヘ
テハ確カニ二千万圓デ、極メテ少額デアリ
ナケレバナラスト存ジマス

次ニ本營團ノ資本金が二千万圓デ、此ノ
營團ノ仕事ニ比シテ極メテ少額デハナイカ
ト云フ點デアリマスルガ、資本金トシマシ
トニ相成ルト思フノデアリマス

マスガ、本營團ノ仕事ノ性質上比較的短期间ノ借入金ニ依リマンシテ仕事が運用サレルモノト私共豫想シテ居リマス、數億圓ノ仕事ハ勿論此ノ營團トシテシナケレバナラズト思ヒマス、他ノ類似ノ機關等が債券ノ發行ニ依ツテ資金ノ集メル形式ヲ採ツテ居リマスガ、是等ハ多クハ長期ノ資金ヲ要スルガ故ニ、サウ云フ形式ヲ採ツテ居リマスケレドモ、此ノ管理營團ノ取扱ヒマスル品物ハ、其ノ或ル部分ハ長期ニ亘ツテ保管セラレルモノモアリマスケレドモ、大部分ノモノハ廻轉ヲ致シテ参リマスノデ、比較的短期ノ資金デ、宜イト思フノデアリマス、此ノ資金ノ借入ニ付キマシテハ、戰時金融金庫、或現地ニ於キマシテハ、南方開發金庫、又國内ニ於キマシテモ、一般銀行等ヨリ大體必必要な資金ノ借入ニ付キマシテハ、計畫ヲ持ツテ居ルノデアリマス、最後ニ理事長ノ人選ニ關シマシテノ御意見ニ付キマシテハ、全然同感テアリマシテ、十分御趣旨ノ如ク副ファウニ微力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

(拍手)

○國務大臣寺島健君登壇

質問ノ中ニ造船ニ關シマシテ一、二ノ點ノコトニ御觸レニナリマシタノデ、此ノ點ニ付キマシテ御答へヲ申上ゲマス

先づ第一ニ今日運輸ノ重大ナルコトハ何人モ分ヅテ居ル所デアリ、特ニ海運ノ必要ノ痛切ニ感ゼラレルコトハ周知ノコトデアリ、然ルニ今回ノ法案ノ中ニモ造船計畫ノ現ハレガナイ、斯ウ云フ御尋ねデアツタト思ヒマス、造船ニ付キマシテハ從來カラ遞信大臣ニ於キマシテ年度々々、或ハ數年度ニ瓦ル造船計畫ヲ持ツテ居リマス、是ガ實績申ニ於キマシテ事變ノ進展ニ依リ、資材、勞力、其ノ他ノ點カラ見マシテ、造船が計畫ヨリモ遲レテ居ルト云フコトハ事實デアリマス、併シナガラ今年度ニ於キマシテ、此ノ點ヲ十分ニ考慮シ、此ノ軍事ノ進展ニ伴ツテ、造船ノ必要ノモノト十分ニ組合セマジテ、計畫通りニ造船ノ實現ヲ期スルコ

トト致シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ

ニ御異議アリマセヌカ

今後ニ於キマシテハ御説ノ如キ計畫的ノ造

船法案ヲ提出スルコトニ相成ルヤモ知レマセヌガ、今日ニ於テ此ノ議會ニハ此ノ提案案

ハ致シテ居リマセヌ

次ニ造船ノ必要ナルコトハ能ク分ツテ居ルガ之ヲ運輸ノ方ハ遞信省ニ於テ所管シ、

造船ノコトハ海軍ニ於テ所管シタラドウカ

ト云フ御尋ネデアツカト存ジマス、運輸ト造船トハ密接ナル關係ノアルコトハ言

フマデモナインデアリマシテ、此ノ間ニ於ケル海軍ノ豫備兵力デアリ、又軍用船ト

キマシテ、從來通り遞信大臣ニ於テ運輸ト

造船ト之ヲ組合セルト共ニ、船舶ハ戰時ニ

ナルモノデアリ、同時ニ必要ナ物資ノ輸送ヲシナケレバナラヌ、此ノ間軍トハ常ニ密

接チ連繫ヲ保ツテ計畫ヲ致シテ居リマス、

併シナガラ戰時に於テ、特ニ今次ノ大東亞

戰争ニ於キマシテハ、一層其ノ密接度ヲ加

ヘルモノデアリマシテ、主ナル造船所ハ今

ノ需要ナル部分ノ機械類ノ製造所モ同地場

日海軍ニ於テ管理ヲ致シテ居ルノデアリマ

ス、此ノ管理工場ニ於キマシテ、軍艦ト商

船ト同時ニ造ツテ居リマスル關係上、又其

ノ軍艦ノ建造ト密接ニ組合ハセマシテ、重要

ナル寄材ノ調整及びソレ等ノ工場ニ於ケル

動力ノ配置等、一元的ニ海軍大臣ニ於テ之

ヲ指揮シ得ルコトニシマシテ、此ノ點ニ關

シマシテハ海務院長官ヲ指揮スルト云フコ

トニナツタ次第デアリマシテ、以テ造船ノ

確實ナル實現ヲ期シタイト存ジテ居リマス、

委員ノ選舉ニ付テ御諸リヲ致シマス

以上ヲ以テ御答ヘト致シマス(拍手)

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 是ニテ質疑ハ

終了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ

委員ノ選舉ニ付テ御諸リヲ致シマス

○依光好秋君 日既第二乃至第六ノ五案ヲ

一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラ

○副議長(内ヶ崎作三郎君) 依光君ノ神議

第七 郵便法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 郵便貯金法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十一 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十二 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十三 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十四 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十五 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十六 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十七 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十八 括シテ第一讀會ヲ開キマス——寺島遞

信大臣

(國務大臣寺島健君登壇)

○國務大臣(寺島健君) 只今議題トナリマシタ郵便法中改正法律案竝ニ郵便貯金法中

改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説

明申上ゲマス

先づ郵便法中改正法律案ニ付キマシテハ、

大東亞戰爭完遂ノ爲ニ、戰時財政ノ強化ヲ

期スルコトハ喫緊ノ要事デアリマス、斯カ

ル戰時國家ノ要請ニ應ヘマスルト共ニ、併

セテ通信事業運營上ノ調整ヲ行セマス爲ニ、

各種通信料金ノ引上ヲナサントスルノデア

リマシテ、郵便料金ニ付キマシテハ、書狀

及ビ封緘葉書等ノ基本的料金ハ法律ニ規定

セラレテ居リマスルノデ、是ガ改正ノ爲ニ

本案ヲ提出致シタ次第デアリマス

今回行ヒマスル郵便料金引上ノ結果ハ、

國民ニ對シマシテ多少ノ負擔ヲ増スコトト

ナリマシテ、最モ普遍的ニ利用セラレテ居

リマスル通常葉書及ビ往復葉書ノ料金引上

ハ之ヲ行ハナイコトトシ、國民ニ與ヘル影

響ヲ可及的少カラシムルヤウ致シテ居ル次

第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協

賛アランコトヲ希望致シマス

次ニ郵便貯金法中改正法律案ノ趣旨ニ付

キマシテ申上ゲマス、戰時下財政政策ノ圓

滑ナル運行ヲ期スル上ニ於キマシテ、郵便

貯金ハ國民大衆ノ貯蓄機關トシテ最も重要

テ參ツテ居ルノデアリマス、幸ヒニシテ郵

便貯金ハ良好ナ成績ヲ挙ゲテ居ルノデアリ

マスルガ、現下ノ情勢ハ今後益、國民貯蓄ノ

増強ヲ必要トシ、隨テ郵便貯金ニ課セラレ

ル使命モ亦愈、重大トナツテ參リマスノデ、

之ニ對應スル爲メ郵便貯金ノ一人ノ貯金制

限額三千圓ヲ五千圓ニ引上げ、國民ニ新タ

第五種 農產物種子

第一種 書狀

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金法中改正法律案

第三條第一項中「三千圓」ヲ「五千圓」ニ改ム

第七條中「郵便切手」ヲ下ニ「郵便貯金切手」ヲ加フ

第七條ノ二 郵便貯金切手ハ命令ノ定期正ス

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

附則第二項中「昭和十七年四月一日」ヲ

〔昭和二十一年四月一日〕ニ改ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金切手ニハ命令ノ定期正ス

リ割増金ヲ付スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

別表第百二十九號中「福山」ヲ「大島」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地方鐵道補助法中改正法律案

第十二條ノ二 主務大臣又ハ地方長官ハ

體力検査ニ基キ國民體力ノ向上ヲ圖ル

爲特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ

定ムル所ニ依リ公共團體其ノ他ノ法人

又ハ團體ニ對シ體力向上ニ關シ處置又

ハ施設ヲ爲スコトヲ指示スルコトヲ得

第十三條第一項中「第十條乃至前條」ヲ

「第十條乃至第十二條」ニ、同條第二項中

「第八條第一項第二項及第十條乃至前條」ヲ

ヲ「第八條第一項乃至第四項及第十條乃

至第十二條」ニ改ム

第十四條ノ二 本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依ル地方長官ノ職權ノ一部

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保健所ノ長ヲ

シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第十五條第一號中「第五條第一項但書ノ

規定ニ依ル地方長官ノ命令」ヲ「第五條第

一項但書ノ規定（第六條ノ二第二項但書

ノ規定ニ依リ準ズル場合ヲ含ム）ニ依ル

命令」ニ改メ同條第一號中「被管理者」保

護者又ハ第四條第二項但書ノ規定ニ依ル

義務者」ヲ「被管理者」（第六條ノ二第一項

ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ要

スル者ヲ含ム）、保護者（第六條ノ二第一

項ノ規定ニ依リ體力検査ヲ受クルコトヲ

要スル者ニシテ未成年者又ハ禁治產者タ

ルモノニ付親權ヲ行フ者、後見人タル者又

ハ後見人ノ職務ヲ行フ者ニシテ本法施行

ノ下ニ「（第六條ノ二第三項ノ規定ニ依リ

準用スル場合ヲ含ム）ヲ、「被管理者」ノ下

ニ「第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ體力

検査ヲ受クルコトヲ要スル者ヲ含ム」ヲ

加フ

附則第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
第八條第一項ノ規定ハ第二條ノ規定ニ
該當スル者ニシテ前項ノ規定ニ依リ被
管理者タラザルモノノ中命令ヲ以テ定

ム者ガ體力検査ヲ受ケタル場合ニ之

ヲ準用ス
附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
國民醫療法案

第一章 總則

第一條 本法ハ國民醫療ノ適正ヲ期シ國
民體力ノ向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條 本法ニ於テ醫療關係者トハ醫
師、齒科醫師、保健婦、助產婦及看護
婦ヲ謂フ

第二章 醫師及齒科醫師

第三條 醫師及齒科醫師ハ醫療及保健指
導ヲ掌リ國民體力ノ向上ニ寄與スルヲ
以テ其ノ本分トス

第四條 醫師又ハ齒科醫師タランツトル 者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ 免許ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對 シテハ醫師免許又ハ齒科醫師免許ヲ與 ヘズ

一 六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處 セラレタル者

二 未成年者、禁治產者、准禁治產者、 精神病者、聾者、啞者及盲者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對 シテハ醫師免許又ハ齒科醫師免許ヲ與 ヘザルコトアルベシ

一 六年未滿ノ徵役又ハ禁錮ニ處セラ レタル者

二 醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者

三 前二號ニ該當スル者ヲ除クノ外醫 事ニ關シ不正ノ行爲アリタル者

第七條 厚生省ニ醫籍及齒科醫籍ヲ備ヘ 登録スベキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 醫師ニ非ザレバ醫業ヲ、齒科醫 師ニ非ザレバ齒科醫業ヲ爲スコトヲ得 ズ

第十六條 日本醫師會、道府縣醫師會、 日本齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ハ 醫療及保健指導ノ改良發達ヲ圖リ國民 體力ノ向上ニ關スル國策ニ協力スルヲ 以テ目的トス

第十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

第十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

第十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ク

二十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ク

二十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ク

二十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ク

二十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定 ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ク

二十四條 醫業又ハ齒科醫業ニ關シテハ 何人ト雖モ前條ノ規定ニ依ル専門ノ標 榜ノ外技能、治療方法、經歷又ハ學位 ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ但シ醫 師又ハ齒科醫師ノ稱號及命令ヲ以テ定 ムル診療科名ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二十五條 醫師又ハ齒科醫師第五條各號ノ 一一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消 ル爲必要ナル命令ヲ以テ定ムル場合ハ此 ノ限ニ在ラズ

二十六條 醫師又ハ齒科醫師第六條各號ノ 一一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消 ル場合ハ前項ニ規定スルモノノ外醫 業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ制限ス

二十七條 醫師又ハ齒科醫師ノ稱號及命令ヲ以テ定 ムル診療科名ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二十八條 醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當 ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

二十九條 診療ニ從事スル醫師又ハ齒科醫 師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當 ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

三十條 診察又ハ検案ヲ爲シタル醫師ハ診斷 書、檢案書又ハ死產證書ノ交付ノ需ア ル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒 ムコトヲ得ズ

三十一条 診察ヲ爲シタル齒科醫師ハ診斷書ノ交 付ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナク シテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

三十二條 醫師ハ自ラ診察セズシテ檢案書若ハ死產證書 ヲ交付スルコトヲ得ズ但シ診療中ノ患 者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷 書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

三十三條 齒科醫師ハ自ラ診察セズシテ治療ヲ爲 シ又ハ診斷書若ハ處方箋ヲ交付スルコ トヲ得ズ

三十四條 醫師診療ヲ爲シタルトキハ本 人又ハ其ノ保護者ニ對シ療養ノ方法其 ノ他體力ノ向上上必要ナル事項ノ指導 ヲ爲スベシ

三十五條 前項ノ規定ハ齒科醫師診療ヲ爲シタル 場合ニ之ヲ准用ス

三十六條 醫師又ハ齒科醫師診療ヲ爲シタル トキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

三十七條 第二項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之 タル者ニ付第五條第二號ノ原因止ミタ ルトキ亦同ジ

三十八條 前項前段ノ規定ニ依リ再免許ヲ受ケタ ル者主務大臣ノ定期間内ニ於テ第六條 第一號又ハ第二號ニ該當スルニ至 リタルトキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

三十九條 第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之 タル者ニ付第五條第二號ノ原因止ミタ ルトキ亦同ジ

四十條 第三章 醫師會及齒科醫師會 ヲ診療錄ニ記載スベシ

四十一條 前項ノ診療錄ニシテ病院又ハ診療所ニ 依リ爲シタル診療ニ關スルモノハ其ノ 病院又ハ診療所ノ管理著ニ於テ、其ノ 他ノ診療ニ關スルモノハ其ノ醫師又ハ

四十二條 醫師又ハ齒科醫師診療ヲ爲シタル トキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

四十三條 第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之 タルトキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

四十四條 第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之 タルトキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

四十五條 第一項乃至第三項ノ處分ハ主務大臣之 タルトキハ其ノ再免許ハ效力ヲ失フ

四十六條 日本醫師會、道府縣醫師會、 日本齒科醫師會及道府縣齒科醫師會ハ 醫療及保健指導ノ改良發達ヲ圖リ國民 體力ノ向上ニ關スル國策ニ協力スルヲ 以テ目的トス

四十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

四十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

四十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十四條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十五條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十六條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

五十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十四條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十五條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十六條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

六十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十四條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十五條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十六條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

七十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十四條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十五條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十六條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十七條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十八條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

八十九條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

九十條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

九十一條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

九十二條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

九十三條 醫師又ハ齒科醫師ハ勅令ノ定ム ル所ニ依リ道府縣醫師會又ハ道府縣 齒科醫師會ヲ設立スベシ

九十四條 醫業又ハ齒科醫業ニ關シテハ 何人ト雖モ前條ノ規定ニ依ル専門ノ標 榜ノ外技能、治療方法、經歷又ハ學位 ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ズ

九十五條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

九十六條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

九十七條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

九十八條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

九十九條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零一條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零二條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零三条 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零四條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零五條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零六條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零七條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零八條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零九條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零十条 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零一条 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零二條 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零三条 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零四年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零五年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零六年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零七年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零八年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零九年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零十年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零一年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

一百零二年 醫業又ハ齒科醫業ニ關スル廣告ヲ 爲スコトヲ得ズ

會ノ會員トス

醫師又ハ歯科醫師ニ非ザルモ醫師免許

又ハ歯科醫師免許ヲ受クル資格ヲ有ス

ル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道府

縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ノ會員

タランムルコトヲ得ルモノトス

第十八條 道府縣醫師會又ハ道府縣齒科
醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ日本醫
師會又ハ日本齒科醫師會ヲ設立スベシ
道府縣醫師會又ハ道府縣齒科醫師會ハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ日本醫師會又ハ
日本齒科醫師會ノ會員トス第十九條 道府縣醫師會又ハ道府縣齒科
醫師會ハ其ノ會員ヨリ徵收スベキ收入
ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ
得第二十條 前四條ニ規定スルモノノ外日
本醫師會、道府縣醫師會、日本齒科醫師
會及道府縣齒科醫師會ノ設立ノ手續、監
督、會員ノ懲戒其ノ他ニ關シ必要ナル
事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 醫療等ノ指導及監督

第二十一條 病院、診療所又ハ產院ヲ開
設セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在
リテハ警視總監）ノ許可ヲ受ケベシ
前項ニ規定スルモノノ外病院、診療所
及產院ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以
テ之ヲ定ム第二十二條 主務大臣國民體力ノ向上ヲ
圖ル爲必要アリト認ムルトキハ勅令ノ
定ムル所ニ依リ醫療關係者ト爲リタル
者ヲシテ二年以内主務大臣ノ指定スル
業務ニ從事スベキコトヲ命ズルコトヲ
得前項ノ規定ニ依ル命令ハ初テ醫療關係
者ト爲リタル時ヨリ一年以内ニ之ヲ爲
スモノトス第二十三條 主務大臣國民體力ノ向上ヲ
圖ル爲必要アリト認ムルトキハ醫療關係
者ニ對シ醫療、保健指導、助產及看

護ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ醫療關係者ヲシテ醫療、保健指
導、助產及看護ニ關シ必要ナル事項ノ
修習ヲ爲サシムルコトヲ得第二十五條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ醫療、助產及看護ノ報酬又ハ醫
療關係者ノ受クベキ給與ニ關シ必要ナ
ル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得第二十六條 主務大臣又ハ地方長官（東
京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム）必要
アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ
依リ當該官吏ヲシテ病院、診療所及產
院ニ臨檢シ其ノ構造設備又ハ診療錄其
ノ他ノ帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ
得第二十七條 本章ニ規定スルモノノ外保
健婦、助產婦及看護婦ニ關シ必要ナル
事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム第二十八條 本章ニ規定スル主務大臣ノ
職權ノ一部ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地
方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ
含ム）ラシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第五章 日本醫療團

ノ事項ヲ規定スベシ

第一目的

第三十六條 日本醫療團ハ定款ヲ以テ左
ノ事項ヲ規定スベシ第三十七條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更
スルコトヲ得第三十八條 日本醫療團ハ勅令ノ定ムル
所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス第三十九條 日本醫療團ニ付解散ヲ必要
トスル事由發生シタル場合ニ於テ其ノ
處置ニ關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定第四十條 日本醫療團ニハ所得稅、法
人稅及營業稅ヲ課セバ第四十一條 民法第444條、第50條
第五十四條及第五十七條並ニ非訟事件
手續法第三十五條第一項ノ規定ハ日本
醫療團ニ之ヲ準用ス第四十二條 日本醫療團ニ總裁副總裁各
一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ
置ク第四十三條 總裁、副總裁、理事及監事
ハ主務大臣之ヲ命ズ第四十四條 總裁、副總裁及理事ハ定款
ノ定ムル所ニ依リ從タル事務所ノ業務
ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲
ヲ爲ス權限ヲ有スル代理人ヲ選任スル
コトヲ得第四十五條 總裁、副總裁及理事ハ他ノ
職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大
臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在
ラズ第四十六條 日本醫療團ニ參與理事ヲ置
キ地方長官ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充
ツ第四十七條 日本醫療團ニ評議員若干人
ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ第四十八條 參與理事ハ日本醫療團ノ業務ニ參與ス
ル第四十九條 日本醫療團ニ評議員若干人
ヲ置キ主務大臣之ヲ命ズ第五十條 日本醫療團ニ非ザル者ハ日本
醫療團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フル
コトヲ得ズ前項ノ出資ハ國債證券ヲ交付シテ之ヲ
爲スコトヲ得前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ
交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之
係者ニ對シ醫療、保健指導、助產及看

項ニ付總裁ノ諮問ニ應シ必要アルトキ

ハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期へ二年トス

第四十八條 日本醫療團ニ顧問若干人ヲ命

置キ總裁ノ推薦ニ依リ主務大臣之ヲ命

顧問ハ業務ニ關スル重要ナル事項ニ參

顧問ハ名譽職トス

第四十九條 日本醫療團ハ左ノ業務ヲ行

一 病院、診療所及產院ノ經營

二 前號ノ病院、診療所及產院ノ醫療

關係者ノ指導及鍛成

三 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前

項ニ掲ガル業務以外ノ業務ヲ行フコトヲ得

第五十條 日本醫療團病院、診療所又ハ產院ノ設備ノ讓渡又ハ貸付ニ付權原ヲ有スル者ト協議ヲ爲スモ協議調ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ニ其ノ讓受又ハ借受ニ付決定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ當ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前三項ニ規定スルモノノ外決定及之ニ依ル病院、診療所又ハ產院ノ設備ノ讓渡又ハ貸付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前四項ノ規定ハ病院、診療所又ハ產院ノ事業ノ讓渡又ハ貸付ニ之ヲ準用ス

第五十一條 日本醫療團ハ前條ノ規定ニ依リ讓受ケタル病院、診療所又ハ產院ノ設備又ハ事業ノ代價ニ付テハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

ヲ定ム

第五十二條 日本醫療團ハ第四十九條ニ規定スル業務ノ用ニ充ツル爲必要ナル

土地、建物其ノ其他ノ工作物又ハ土地ニ

關スル所有權以外ノ権利ヲ收用又ハ使

用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第五十三條 日本醫療團ハ政府ノ拂込ミタル出資金額ノ五倍ヲ限り醫療債券ヲ發行スルコトヲ得

第五十四條 醫療債券ハ額面金額五十圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

醫療債券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得

第五十五條 日本醫療團ハ醫療債券借換ノ爲一時第五十三條ノ制限ニ依ラズ醫療債券ヲ發行スルコトヲ得

第五十六條 政府ハ醫療債券ヲ發行シタルトキハ發行後一月以内ニ其ノ發行額ノ爲一時第五十三條ノ制限ニ依ラズ醫

療債券ヲ發行スルコトヲ得

第五十七條 医療債券ハ賣出ノ方法ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五十八條 日本醫療團ニ於テ醫療債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第五十九條 醫療債券ノ消滅時效ハ元本ニ在リテハ十五年、利息ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第六十條 醫療債券ノ所有者ハ日本醫療團ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨ガルコトナシ

第六十一條 所得稅法及有價證券移轉稅法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ醫

療債券ニ之ヲ准用ス

第六十二條 前九條ニ規定スルモノノ外

醫療債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十三條 日本醫療團ノ事業年度ハ毎年四月ヨリ翌年三月迄トス

第六十四條 日本醫療團ハ拂込ミタル出資金額又ハ第三十三條ノ出資ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ得

日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ政

府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ減額シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第六十五條 日本醫療團ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得

第六十六條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 日本醫療團ハ郵便貯金ト共ニハ郵便貯金ト爲スコトヲ得

第六十八條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ヲ處分スルコトヲ得ズ

第六十九條 日本醫療團ハ毎事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第七十條 主務大臣ハ日本醫療團ニ對シ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、検査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル

命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 主務大臣ハ日本醫療團ニ對シシ結核ノ療養其ノ他國民醫療ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 總裁、副總裁、理事又ハ監事ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第七十三條 政府ハ日本醫療團ニ對シ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第七十四條 第八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師若ハ歯科醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモシタル者故ナク第二十六條ノ規定ニ依ル

ノナルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リシタル者故ナク第二十六條ノ規定ニ依ル

診療錄ノ検査ニ關シ知得シタル醫師若ハ歯科醫師ノ業務上ノ祕密又ハ個人ノ祕密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ罰金ニ處ス

役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕密ヲ漏洩シタルトキ亦前項ニ同ジ

第七十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ料ニ處ス

第七十七條 日本醫療團ハ主務大臣之ヲ監督ス

第六十八條 日本醫療團ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ヲ處分スルコトヲ得ズ

第六十九條 日本醫療團ハ毎事業年度ノ初ニ於テ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第七十條 第八條第二項、第九條、第十條、第十二條又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

第七十一條 第十四條第一項又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第七十二條 第二十條ノ規定ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ基キテ爲ス處分又ハ同

二項ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者

第七十三條 第二十四條第一項又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第七十四條 第二十二條ノ規定ニ違反シタル者

第七十五條 第二十四條第二項若ハ第二十一條第一項ノ規定ニ違反シタル者

第七十六條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第七十七條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第七十八條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第七十九條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十一條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十二條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十三條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十四條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十五條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十六條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十七條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十八條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第八十九條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十一條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十二條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十三條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十四條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十五條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十六條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十七條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十八條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

第九十九條 第二項ノ規定ニ違反シタル者

六、醫業停止中ノ醫師ニシテ醫業ヲ爲シタルモノ又ハ歯科醫業停止中ノ歯科醫師ニシテ醫業ヲ爲シタルモノ

第七十七條 法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ

號第三號又ノ第四號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ

第七十八條 第七十六條第二號乃至第四號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理免カルルコトヲ得ス

事政編役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行
スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナ
ルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ
在ラズ

圓以下ノ過料ニ處ス

二 第五章ニ規定セザル業務ヲ營ミタ レ、キ

三 第五十三條又ハ第五十五條第二項ノ規定ニ違反シ醫療債券ノ發行ヲ爲シ又ハ賞還ヲ爲ナザレトキ

四 第六十五條ノ規定ニ違反シ業務上ノ餘裕金ヲ運用シタルトキ

ニ違反シタルトキ

圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ
登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登

二 第六十六條ノ規定ニ違反シ書類ヲ
備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載ス

ベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ。第八十一條 第四十九條ノ規定ニ違反シ日本醫療團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス附則

第八十二條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第八十三條 醫師法及歯科醫師法ハ之ヲ廢止ス但シ同法中郡市區醫師會、道府縣醫師會及日本醫師會竝ニ郡市歯科醫師會、道府縣歯科醫師會及日本歯科醫師會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ定ムル時迄仍其ノ效力ヲ有ス。

第八十四條 醫師法又ハ歯科醫師法ニ依リ醫師免許又ハ歯科醫師免許ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ醫師免許又ハ歯科醫師免許ヲ受ケタル者ト看做ス。醫師法又ハ歯科醫師法ノ施行前醫師開業免狀又ハ歯科醫術開業免狀ヲ得タル者ノ爲ス。醫業ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル。

第八十五條 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス。

第八十六條 醫師法又ハ歯科醫師法ニ依ル。醫籍又ハ歯科醫籍ノ登錄ハ之ヲ本法ニ依ル。醫籍又ハ歯科醫籍ノ登錄ト看做ス。

第八十七條 醫師法又ハ歯科醫師法ニ依リテ爲シタル醫師免許若ハ歯科醫師免許ノ取消ノ處分又ハ醫業若ハ歯科醫業ノ停止ノ處分ハ之ヲ本法ノ相當規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス。此ノ場合ニ依於テ停止ノ期間ハ仍從前ノ例ニ依ル。

第八十八條 醫師法又ハ歯科醫師法ノ郡

市區醫師會道府縣醫師會及日本醫師會
並二郡市齒科醫師會道府縣齒科醫師會

八十三條但書ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル時ニ於テ存スルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各本法ノ道府縣醫師會及

日本醫師會並三道府縣齒科醫師會及日本齒科醫師會之ヲ承繼ス
第八十九條 醫師法若ハ、齒科醫師法又ハ

之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本醫療團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

可ヲ受クベシ
第九十一條 定款ニ付主務大臣ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ運帶ナク出資

ノ第一回ノ拂込ア稟詰ズベシ

第九十三條 日本醫療團主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因テ日本醫療團總裁ニ弓繩ケベシ

第九十四條 第七條第一項中「前條ノ規定ニ依リ設
立ス」

ノ結核療養所又ハ」ヲ加フ
第九十五條 登錄稅法中左ノ通改正ス

所又ハ產院ノ用ニ供スル不動產ニ關
スル權利ノ取得又ハ保存ニ付登記ヲ

ノ登録税ノ額ハ不動産價格ノ千分ノ
一トス

付」ヲ「恩給金庫又ハ日本醫療團力恩給
債券又ハ醫療債券ニ付」ニ、「恩給債券

八其ノニ改ム

「日本醫療團」ヲ「住宅營團法」ノ下ニ
「國民醫療法」ヲ加フ
同條第十八號中「又ハ住宅營團」ヲ「住
宅營團又ハ日本醫療團」ニ改ム
第九十六條 印紙稅法中左ノ通改正ス
第五條第六號ノ四ノ次ニ左ノ一號ヲ加
フ

六ノ四ノ二 日本醫療團ノ發スル出
資證券並ニ國民醫療法第四十九條第
一項第一號及第二號ノ業務ニ關スル
諸書張寧

健康保險法中左ノ通改正ス

第一條第一項中「療養ノ給付又ハ傷病手
當金、埋葬料、分娩費若ハ出產手當金ノ
支給」ヲ「保險給付」ニ改メ同條第二項ヲ
左ノ如ク改ム

保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被保險
者ニ依リ生計ヲ維持スル者(以下被扶
養者ト稱ス)ノ疾病、負傷又ハ分娩ニ
關シ保險給付ヲ爲スモノトス

第二條第一項中「事業主ヨリ」ヲ削ル

第七條第二項中「補給金ヲ支給スル」ヲ
保險給付ヲ爲スニ、「世帶員」ヲ「扶養
者」ニ改ム

第九條ノ二 行政官廳保險給付ニ關シ必
要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所
ニ依リ當該官吏ヲシテ診療錄其ノ他ノ
帳簿書類ヲ検査セシムルコトヲ得

第十二條中「政府」ヲ「國、北海道、府縣、
市町村其ノ他ニ準ズベキモノ」ニ改ム
第十三條 左ノ各號ノニ該當スル事業
所ニ使用セラル者ハ健康保險ノ被保
險者トス

一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ
適用ヲ受クル工場

二 鑄業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ
工場

三 法人又ハ命令ヲ以テ定ムル團體ノ
事務所ニシテ當時五人以上ノ從業員
ヲ使用スルモノ

四 左ニ掲グル事業ノ事業所ニシテ常

(イ) 物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業
 鑄物ノ採掘又ハ採取ノ事業
 電氣又ハ動力ノ發生、傳導又ハ供給ノ事業
 貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業
 貨物積卸ノ事業
 金融又ハ保険ノ事業
 物ノ保管又ハ賃貸ノ事業
 媒介周旋ノ事業
 集金、案内又ハ廣告ノ事業
 其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業
 第十三條ノ二 前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ健康保險ノ被保險者トセズ
 一 船員保險ノ被保險者（勅令ヲ以テ指定スル者ヲ除ク）
 二 一年ノ報酬ガ勅令ヲ以テ定ムル額ヲ超エル職員
 三 臨時ニ使用セラル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
 四 前各號ニ掲タル者ノ外勅令ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ健康保險ノ被保險者タルベキ者ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノ國民健康保險ノ被保險者タル期間ハ之ヲ健康保險ノ被保險者トセズ
 第十四條 第十三條ニ規定スル事業所以外ノ事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得前項ノ認可ヲ由請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十五條ノ二 健康保険ノ被保險者ヲ使用スル事業所ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業所ニ使用セラルル第十三條ノ二第一項第二號ニ該當スル者ヲ包括シテ健康保険ノ被保險者ト爲スコトヲ得
第十三條ノ二(第一項第二號ヲ除ク)、第十四條第二項及前條第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ准用ス
第十六條中「工場又ハ事業」ヲ「事業所」ニ改ム
第十七條第一項中「第十三條及第十五條」ヲ「第十三條、第十五條及第十五條ノ二」ニ、「第十三條、但書若ハ第十五條第一項」ヲ「第十三條但書若ハ第十五條第一項」ニ、「第十五條ノ二」第十五條第二項若ハ第十五條ノ二第二項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル
第十八條中「第十三條及第十五條」ヲ「第十三條、第十五條及第十五條ノ二」ニ、「第十三條但書若ハ第十五條第一項」ヲ「第十三條但書若ハ第十五條第一項」ニ、「第十五條ノ二」第十五條第二項若ハ第十五條ノ二第二項」ニ改ム
第十九條第一項中「第十五條」ノ下ニ「又ハ第十五條ノ二」ヲ加フ
第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪失ノ日前二月以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得
第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス
第十八條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス
第二十三條 被保險者ハ被保險者及被扶養者ノ疾病若ハ負傷ノ療養又ハ被保險者及被扶養者ノ健康ノ保持増進ノ爲必要ナル施設ヲ爲シ又ハ之ニ必要ナル費用

ノ支出ヲ爲スコトヲ得
第二十三條ノ二第一項中「被保險者」ヲ
「被保險者及被扶養者」ニ、「保險者」ノ施
設ヲ「前條ノ施設」ニ改ム
第二十七條乃至第一十九條及第三十五條
中「事業」ヲ「事業所」ニ改ム
第三十條中「第十四條第一項」ノ下ニ「又
ハ第十五條ノ二第一項」ヲ加フ
第三十一條中「事業」ヲ「一又ハ二以上
ノ事業所」ニ改ム
第三十三條 削除
第三十七條ノ二 主務大臣ハ健康保険組
合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ第二十
三條ノ施設ヲ爲スコトヲ命ジ又ハ之ニ
必要ナル費用ノ支出ヲ命ズルコトヲ得
第四十二條中「業務」ヲ「事業所」ニ改ム
第五四十二條ノ二 健康保険組合ハ共同シ
テ其ノ目的ヲ達スル爲健康保険組合聯
合會ヲ設立スルコトヲ得
健康保険組合聯合會ハ法人トス
健康保険組合聯合會ヲ設立セントスル
トキハ規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受
クベシ
主務大臣ハ健康保険組合ニ對シ健康保
險組合聯合會ニ加入スルコトヲ命ズル
コトヲ得
第二十三條、第二十三條ノ二、第三十
四條、第三十六條乃至第三十九條及第
四十一條ノ規定ハ健康保険組合聯合會
ニ之ヲ準用ス
第一 診察
二 藥剤又ハ治療材料ノ支給
三 處置、手術其ノ他ノ治療
四 病院又ハ診療所ヘノ收容
五 移送
第六 項 第四號乃至第六號ノ給付ハ保險者
ガ必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモ
ノニ限ル但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ
此ノ限ニ在ラズ
第四十三條ノ二 前條第一項第一號乃至

第四號ノ給付ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保険醫及保險藥劑師並ニ保険者ニ指定スル者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルモノトス此ノ場合ニ於テハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ定ムル所ニ依リ一部負擔金ヲ支拂フベシ
第四十三條ノ三 保険醫又ハ保險藥劑師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ行政官廳之ヲ指定ス
醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲ使用スル者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ガ保険醫又ハ保險藥劑師タルコトヲ拒ムコトヲ得ズ
第四十三條ノ四 保険醫及保險藥劑師ガ療養ノ給付ヲ擔當スルニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十三條ノ五 保険醫若ハ保險藥劑師又ハ之ヲ使用スル者ガ療養ノ給付ニ關シ保険者ニ請求スペキ費用ノ額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル
第四十四條ノ二 療養ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ主務大臣ノ指定スル疾病ニ關シテハ保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間ヲ超エ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スモノトス
第四十五條中「一日ニ付」ノ下ニ「職員ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノニ在リテハ報酬日額ノ百分ノ五十ニ相當スル金額ヲ、其ノ他ノ者ニ在リテハ」ヲ加フ
第四十六條中「病院」ヲ「病院又ハ診療所」ニ改ム
第四十七條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改

傷病手當金ノ支給期間ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シテハ療養ノ爲務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ六月ヲ以テ限度トス
第四十四條ノ二第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十八條第一項中「前條」ヲ「第四十四條ノ二」ニ改ム
第四十九條第一項中「報酬日額ノ三十日分」ヲ「報酬月額」ニ改ム
第五十條中「二十圓」ヲ「勅令ヲ以テ定ムル額」ニ改ム
第五十一條 保険者ハ被保險者ヲ產院ニ收容スルコトヲ得
產院又ハ病院若ハ診療所ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スペキ分娩費及出產手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得
第五十六條第一項中「九十日」ヲ「三月」ニ改ム
第五十七條ノ二 前三條ノ規定ニ拘ラズ被保險者タリシ者船員保險ノ被保險者又ハ勅令ヲ以テ定ムル者ト爲リタルトキハ保險給付ヲ爲サズ
第五十九條ノ二 第一條第二項ノ保險給付ニ關シ其ノ種類、範圍其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十一條中「傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザル」ヲ「保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ザル」ニ改ム
其ノ限度ニ於テニ改ム
同條第四項中「補給金ヲ支給スル」ヲ「保險給付ヲ爲ス」ニ改ム
第六十三條中「之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セザル」ヲ「之ニ爲スペキ保險給付ノ一部ヲ爲ザル」ニ改ム
第六十九條ノ二第一項中「世帶員」ヲ「被扶養者」ニ、同條第二項中「補給金」ヲ「保

第六十九條第一項第一款「保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
健康保険事業ニ要スル費用ノ一部ヲ負
擔ス」
第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
健康保険事業ニ要スル費用ノ一部ヲ負
担ス
第七十二條 但書中「第二十條」ヲ上ニ「第
十五條ノ二又ハ」ヲ加フ
第七十四條第一項中「一日ニ付報酬日額」
ヲ「一月ニ付報酬月額」ニ改メ同項但書ヲ
左ノ如ク改ム
但シ被保險者タル資格ヲ喪失シタル月
ニ於テ被保險者タル資格ヲ取得シタル
者及第十五條ノ二又ハ第二十條ノ規定
ニ依ル被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ
ズ
第七十六條中「其ノ期間」ヲ上ニ「勅令ノ
定ムル所ニ依リ」ヲ加フ
第八十四條ノ二 第八十一條及前條ノ規
定ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ
健康保険組合ハ之ヲ行政廳ト看做ス
第八十七條 當該官吏又ハ其ノ職ニ在リ
タル者故ナク第九條ノ二ノ規定ニ依ル
診療録ノ検査ニ關シ知得シタル他ノ公
務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕
密ヲ漏洩シタルトキハ六月以下ノ懲
役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
職務上前項ノ祕密ヲ知得シタル他ノ公
務員又ハ公務員タリシ者故ナク其ノ祕
密ヲ漏洩シタルトキ亦前項ニ同ジ
第九條ノ二ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢
査ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌避シタル者ハ五
百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依
ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ
若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ
拒ミ、妨げ若ハ忌避シタル者ハ三百圓
以下ノ罰金ニ處ス
第九十條第一項中「健康保険組合」ノ下ニ
「及健康保険組合聯合會」ヲ、「第三十七
條」ヲ下ニ「(第四十二條ノ一第五項ノ規
定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

附則
本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
職員健康保険法ハ之ヲ廢止ス
前項ノ規定施行前ノ職員健康保険ノ保険
給付及保険料其ノ他ノ徵収金ニ關シテハ
仍舊法ニ依ル
第二項ノ規定施行ノ際現ニ存スル職員健
康保険組合ハ同規定施行ノ日ヨリ健康保
險組合ト爲リ職員健康保険組合ノ権利義務
務ヲ承繼スルモノトス
第二項ノ規定施行ノ際現ニ職員健康保険
ノ被保險者タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ健康保険ノ被保險者ト爲リタルモノト
ス
第二項ノ規定施行ノ際現ニ職員健康保険
ノ被保險者タルシ者ニシテ健康保険ノ被
保險者ト爲リタルモノノ受クル健康保険
ノ被保險給付ニ關シテハ其ノ者ガ職員健康
保険ノ被保險者タルシ期間ハ健康保険ノ
被保險者タルシ期間ト看做シ其ノ者ガ職員
員健康保険ノ被保險者トシテ保険給付ヲ
受ケタル期間ハ健康保険ノ被保險者トシ
テ之ニ相當スル保険給付ヲ受ケタル期間
ト看做ス
第二項ノ規定施行前職員健康保険ノ被保
險者ノ資格ヲ喪失シタル者ハ健康保険ノ
保険給付及徵收金ニ關シテハ健康保険ノ
被保險者タリシ者ト看做シ其ノ者ガ職員
健康保険ノ被保險者トシテ受ケタル保険
給付ハ健康保険ノ被保險者トシテ受ケタ
ル之ニ相當スル保険給付ト看做ス
第二項ノ規定施行前職員健康保険法ニ違
反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル
前六項ニ定ムルモノノ外第二項ノ規定施
行ノ際必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
勞働者年金保険法中左ノ通改正ス
第十六條及第十八條中「工場、事業場又
ハ事業」ヲ「事務所」ニ改ム
第十七條第一項中第二號ヲ左ノ如ク改
メ第三號及第四號ヲ削ル
二 健康保険法第十三條ノ事業所以
外ノ事業所ニ使用セラル者

第十八条中第三號ヲ左ノ如ク改ム
三 前條第一項第二號ノ事業所ト爲ルニ至リタルトキ
第二十四條第三項、第三十二條第二項及第三十七條第二項中「工場、事業場若ハ事業所」ヲ「事業所」ニ改ム
國民健康保険法中左ノ通改正ス
第十一條第二項ヲ削ル
第十一條ノ二 地方長官必要アリト認ムルトキハ命令ヲ定ムル所ニ依リ普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ニ就キ設立委員ヲ選任シ普通國民健康保険組合ヲ設立スベキコトヲ命ズルコトヲ得
前項ノ設立委員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ規約ヲ作り普通國民健康保険組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得テ其ノ設立ニ付地方長官ノ認可ヲ受ケバシ
設立委員地方長官ノ定ムル期間内ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ地方長官ハ規約ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第十一條ノ三 組合ハ得タル時又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ規約ヲ作成アリタル時ニ成立ス
第十三條 第十一條ノ規定ニ依ル組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員ト爲ルモノトス
第十一條ノ二ノ規定ニ依リ普通國民健康保険組合ノ設立アリタルトキハ其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員ト爲ルモノトス
特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ前二項ノ規定ニ拘ラズ組合員ト爲ラザルモノトス
第十九條ノ二 療養ノ給付ヲ受けントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保険醫及保険藥劑師竝ニ組合ノ指定スル者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ受ケルモノトス
第十九條ノ三 保険醫又ハ保険藥劑師ハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ醫師、歯科醫師又ハ薬剤師ニ就キ地方長官之ヲ指定ス
醫師、歯科醫師又ハ薬剤師ハ正當ノ理由ナクシテ保険醫又ハ保険薬剤師タルコトヲ拒ムコトヲ得ズ
者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ醫師、歯科醫師又ハ薬剤師ガ保険醫又ハ保険薬剤師タルコトヲ拒ムコトヲ得ズ
第十九條ノ四 保険醫及保険薬剤師ガ療養ノ給付ヲ擔當スルニ關シ必要ナル事
項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十九條ノ五 保険醫若ハ保険薬剤師又ハ之ヲ使用スル者ガ療養ノ給付ニ關シ
ハ之ヲ使用スル者ガ療養ノ給付ニ關シ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ請求
スベキ費用ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

ル

第二十一條

組合ハ被保險者ノ疾病若

ハ負傷ノ療養又ハ被保險者ノ健康ノ保

持増進ノ爲必要ナル施設ヲ爲シ又ハ之

ニ必要ナル費用ノ支出ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ二 第十一條ノ二第三項ノ

場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ニ拘ラ

ズ地方長官ニ於テ普通國民健康保険組

合ノ理事ヲ命ズ

第四十條ノ二 地方長官ハ組合又ハ組合

ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ組合聯合會ニ

加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條中「第十七條」ノ下ニ「第二十

一條」ヲ加ヘ「及第三十條乃至第三十七

條ヲ、第三十條乃至第三十七條及第四

十六條」ニ改ム

第四十六條 主務大臣及地方長官ハ組合

又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ命令

ノ定ムル所ニ依リ第二十一條ノ施設ヲ

爲スベキコトヲ命ジ又ハ之ニ必要ナル

費用ノ支出ヲ命ズルコトヲ得

第四十九條 削除

第五十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ニ依ル訴願又ハ行政訴訟ニ

關シテハ組合ハ之ヲ行政廳ト看做ス

付其ノ地區内ニ於テ普通國民健康保険

付

第五十四條中「ニシテ其ノ社員ノ爲ニ醫

療ニ關スル施設ヲ爲スモノヲ削ル

第五十四條ノ二 前條ノ許可ヲ受ケ普通

國民健康保険組合ノ事業ヲ行フ法人ニ

付

第五十四條中「ニシテ其ノ社員ノ爲ニ醫

療ニ關スル施設ヲ爲スモノヲ削ル

第三條 保護ハ救助、扶助及給與金ノ支

付

第四條 保護ハ保護ヲ受ケバキ者ノ住所

得

第一條 戰時災害保護法案

戰時災害保護法

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

附則

第一章 總則

第一條 戰時災害ニ因リ危害ヲ受ケタル

者並ニ其ノ家族及遺族ニシテ帝國臣民

タルモノハ本法ニ依リ之ヲ保護ス

第二條 本法ニ於テ戰時災害ト稱スルハ

給ノ三種トス

戦争ノ際に於ケル戰鬪行爲ニ因ル災害

及之ニ起因シテ生ズル災害ヲ謂フ

第三條 保護ハ救助、扶助及給與金ノ支

付

第四條 保護ハ保護ヲ受ケバキ者ノ住所

得

第一條 戰時災害保護法案

戰時災害保護法

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

附則

第一章 總則

第一條 戰時災害保護法案

戰時災害保護

リタルモノニ對シ之ヲ爲ス但シ傷痍、
疾病又ハ死亡ガ其ノ者又ハ扶助ヲ受ク
ベキ者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因レ
ルモノナルトキハ扶助ヲ爲サザルコト
ヲ得

一 戰時災害ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾
病ニ罹リタル者

二 戰時災害ニ因ル傷痍又ハ疾病ノ治
療シタル場合ニ於テ仍身體ニ著シキ
障害ヲ存スル者

三 前二號ニ掲グル者ノ配偶者(届出
ヲ爲サザルモ事實上婚姻ト同様ノ關係
ニ在ル者ヲ含ム以下同じ)若ハ直
系卑屬ニシテ前二號ニ掲グル者ト同
一ノ家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ前二
號ニ掲グル者ノ直系血屬ニシテ前二
號ニ掲グル者ガ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病
ニ罹リタル時ヨリ引續キ同一ノ家若
ハ世帶ニ在ルモノ

四 戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ配
偶者若ハ直系卑屬ニシテ戰時災害ニ
因リ死亡シタル者ノ死亡ノ時之下同
一ノ家若ハ世帶ニ在リ且引續キ其ノ
家若ハ世帶ニ在ルモノ又ハ戰時災害
ニ因リ死亡シタル者ノ直系血屬ニシ
テ戰時災害ニ因リ死亡シタル者ノ戰
時災害ニ罹リタル時之ト同一ノ家若
ハ世帶ニ在リ且引續キ其ノ家若ハ世
帶ニ在ルモノ

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ受ク
ベキ者本法ニ依リ救助ヲ受クルトキハ
救助ヲ受クルノ間其ノ者ニ對シ扶助ヲ
爲サズ

扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコ
トヲ得ズ

第十七條 扶助ノ種類左ノ如シ

第一 生活扶助

第二 療養扶助

第三 出產扶助

第四 生業扶助

第五 扶助ハ戰時災害ニ因リ危害ヲ
受ケタル時ヨリ勅令ヲ以テ定ムル期間
ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

扶助ノ程度及方法ニ關シ必要ナル事項
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場

第二十條 扶助ヲ受クル者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年末満ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第二十一條 扶助ヲ受ケ又ハ受クベキ者左ニ掲タル事由ノニ該當スルトキハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サザルコトヲ得一正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關シ地方長官ノ爲ス指示ニ從ハサルトキ二正當ノ理由ナクシテ扶助ニ關スル検診又ハ調査ヲ拒ミタルトキ三素行著シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第四章 紿給與金ノ支給

第二十二條 戰時災害ニ因リ死亡シタル者アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲身體ニ著シ障害ヲ存スル者アルトキ其ノ者ニ對シ同ジ

第二十三條 戰時災害ニ因リ住宅(水上生活者ノ居住ノ用ニ供スル舟ヲ含ム)又ハ家財ノ滅失又ハ毀損アリタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ所有者ニ對シ給與金ヲ給ス

第二十四條 業務ノ性質上戰時災害ニ因ル危害ヲ顧ミルコト能ハズシテ業務ニ從事スルコトヲ要スル者當該業務ニ從事中戰時灾害ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ニ對シ給與金ヲ給ス此ノ場合ニ於テハ第二十二條ノ給與金ハ之ヲ給セズ前項ノ業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 正當ノ理由ナクシテ給與金ノ支給ニ關スル檢診又ハ調査ヲ拒ミタルトキハ其ノ者ニ對シ給與金ヲ給セズコトヲ得

第二十六條 本法ニ依ル保護ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ貧困ノ爲ニスル公費ノ救助又ハ扶助ニ非ザルモノトス
第二十七條 本法ニ依リ給與ヲ受ケタル者ニ品ヲ標準トシテ租税其ノ他ノ公課ヲ課セズ
第二十八條 本法ニ依ル給與金品ハ既ニ押フルコトヲ得ズ
第二十九條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得
第六章 罰則
第三十條 第七條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十一條 詐偽其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ保護ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ六月以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十二條 第十條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ當該吏員ノ立入検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
○國務大臣(小泉義彦君登壇) 只今議題トナリ
マシタ法案中、先づ最初ニ國民體力法中改正法律案並ニ國民醫療法案ニ付テ提案ノ理由ヲ御説明申上ダマス
大東亞戰爭ノ目的完遂ノ爲ニハ心身共ニ剛健ニシテ、大東亞共榮圈内ノ如何ナル地城ニモ雄飛シ得ル不撓不屈ナル多數ノ國民ヲ保持スルコトガ絶対ニ必要アリト存ズルノデアリマス、之ヲ以チマシテ政府ニ於キマシテハ特ニ主眼日ヲ第一ニ青壯年層ノ體力鍛成ト結核警防ニ、第二ニハ結核其ノニ對スル適正ナル醫療施設ノ普及ニ、第三ニハ居次第アリマス、而シテ是ガ爲ニハザル乳幼兒、妊娠婦ノ保護ニ於キマシテ、國民體力ノ向上ニ關スル綜合的方策ヲ樹立シ、之ガ實效ヲ擧ガルニ萬濶憾ナキヲ期シ他ニ

國民體力向上ノ指導體制ヲ敷備確立スルヨ
トト、醫療體制ヲ敷備充實致シマスルコ
トガ何ヨリモ緊要ニアルト存スルノデアリ
マス、國民體力ノ向上ニ資スル根本法ト致
シマシテハ、曩ニ各位ノ御協賛ヲ得マシテ
成立致シマシタ國民體力方法ヲ既ニ實施致シ
テ居リマシテ、未成年者ノ體力向上ニ努メ
テ參ツタノデアリマスルガ、今回同法ノ内容
ヲ一層整備充實スルコト致シタノデアリ
マス、チ一ツニハ青年層ノ核豫防ノ徹
底ヲ圖リマスル爲ニ、被管理者ノ範囲ヲ擴
張スルコトトシ、二ニハ體力検査及ビ其ノ
結果ニ基ク指示及び處置ニ強力ニ實施シ得
ルノ途ヲ開ク等ノ改正ヲ加ヘマシテ、以テ
國民體力向上ヲ圖ルガ爲ノ綜合的指導ニ付
キ、眞ニ萬遺憾ナキヲ期シタノデアリマ
ス、而シテ此ノ國民保健ノ指導體制ノ確立
ト相俟チマシテ、醫療體制ノ整備確立ヲ圖
ルコトモ亦保健體制遂行上必要不可缺ノコ
トト存ズルノデアリマス、惟フニ保健國策
ノ遂行ニ當リマシテハ、醫師其ノ他ノ醫務
關係者ノ熱意アル協力ガアツテコソ所期ノ
目的ヲ達成シ得ルモノト存ズルノデアリマ
ス、然ルニ現行醫療制度ハ、其ノ創始以來
相當ノ年月ヲ經過シテ、時局ノ要請ニ即應
シ得ナイ憾ミが存スルニ至ツテ居リマスノ
デ、今回新タニ國民醫療法ヲ制定致シマシ
テ、現行醫師法及び齒科醫師法ハ之ニ統合
規定致シマスルト共ニ、日本醫療團ヲ創設
スルコトト致シマシテ、一ハ以テ醫師等ヲ
シテ保健國策ニ一層寄與協力セシムルノ途
ヲ開キ、一ハ以テ醫療內容ノ向上ト、醫療
施設ノ適正化爾普及ニ萬遺憾ナカラシムル
コトヲ期シタルノデアリマス、以上二法案ハ
異音鉢後ニ於ケル整備的兵力及ビ生産勞力
ノ劃期的増強ト、進シニハ將來大東西共榮
圈ノ確保ニ必要ナル要員充足ニ遺憾ナカラ
シムルコトヲ期シタルノデアリマス
アリマシテ、又一面ニ於キマシテハ之ニ依
リ國民生活ノ安定ニ資スルコトモ亦多大ナ
ルモノガアルト信ズルノデアリマス
次ニ健康保險法中改正法律案竝ニ國民健
康保險法中改正法律案ニ付キ提案ノ理由ヲ
説明申上ゲマス、現在我ガ國ニ于ケル健康新
保險ノ制度トシマシテハ、工場、礦山等ニ
使用セラレマスル労務者、其ノ他少額所得

是等ノ點ガアルト思ヒマスガ、茲ニハ醫療施設ニ付テ申述べテ見タイト思ヒマス、我が國ノ醫師ノ分布ノ状況ヲ見マスルニ、都巿ニノミ集中致シマシテ、無醫師ガ實ニ三百六十ノ多キニ達シテ居ルノアリマス、死亡率ハ、都市ニ比較致シマスルト非常ナル高率デアリマス、是等ノ無醫師ノ解消ヲナサナケレバ、我國全體ノ死亡率ノ低下ヲ圖ルコトハ出ナイト思フノデアリマス、然ニ從來ノヤウナ消極的施設ヲ以テシマシテハ、何時マズ経ツテモ無醫師ノ解消ト云フモノハ到底望マレナイト思フノデアリマス、政府ハ醫療機關ノ適切ナル配備ヲナシ、是ガ充實ヲ圖ルコトガ最モ先決問題デナケレバナラスト思ヒマスガ、之ニ對スル所ノ政府ノ方策ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

次ニ政府ハ今回醫療法ヲ制定致シマシテ、日本醫療團ヲ設置シ、醫療機關ノ敷備、普及ト醫療内容ノ向上ヲ圖ラントスルノデアリマス、而シテ從來ノ公立病院或ハ產業組合ノ病院中、折角相當ノ實績ヲ挙ゲ、醫療ニ貢獻シツツアル所ノ病院モ決シテ少クナイヤ考ヘマスレバ、現物出資ニ依ル病院ノ結合モ或ハ結構デアリマセウ、併シナガラ從來ノ病院中、折角相當ノ實績ヲ挙ゲ、醫療ニトスルノ意向デアリマス、統制ノ見地カラノデアリマス、是等ノ病院ハ統合ノ爲メ或ハ一時醫療ニ停頓ヲ來スヤウナコトガアツテハナラナイト思ヒマス、政府ハ統合スルヨリモ寧ロ新タナル病床ノ設置ニ全力ヲ注ガルコトが目下ノ急務デアルト思フノデアリマス、即チ統合センガ爲ノ統合ニアラズ、實情ニ即シ、緩急ヲ見計ラツテ之ヲ統合シ、統合ニ急ナル餘リニ醫療機關ノ新設ヲ忘ルルヤウナコトガアツテハナラスト思ヒマス、此ノ統合ニ對スル政府ノ所信ヲ伺ヒタイト思ヒマス

尙ホ醫療團設立ノ基礎ハ國家資本デアリマス、從來各事業毎ニ營團ガ設立セラレマシテ、相當非難ノ聲ガアリマス、本日モ此ノ議場ニ於キマシテ相當非難ノ聲ヲ聞イタノデアリマスルガ、本團ハ營團デハアリ

依ツテ行ハレノニアリマス、隨て收入ヲ確保スル爲ニ經營第一主義トナリ、勢ヒ醫療事業ノ營利化ヲ招来シ、醫費ノ合理化、醫療施設ノ普及、設備ニ支障ノナイヤウ、萬全ノ方途ヲ講ズベキデアルト思ヒマス、尙ホ各事業團ハ或ル時期ニナリマスレバ、或ハ改善ノ途モアリマス、本團ハ人ノ生命ヲ預ツテ居リマス、一タビ誤レバ取返シガ付カナインデアリマスカラ、團ノ實施ニ當努ムルコトガ第一デナケレバナリマヌ、病ノ豫防ラナシ、國民ノ健康ト體力増進ニ努ムルコトアリマス、醫療ノ完成ヲ圖ルト共ニ、國民生活ノ指導ヲ圖リマシテ、疾期發見、是が最モ必要デナケレバナリマセヌ、然ルニ現在ノ保健所ノ如キ政府ノ施設來僅カニ二百箇所アリマシテ、政府ノ企圖スル五百箇所ニナランツトルニハ容易ナコトデハナインデアリマス、政府ハ思ヒ切ツテ保健所ノ増置ヲ急速ニスルコトガ最モ必要ナリト信ズルノニアリマスガ、此ノ保健所ノ設置ニ對シテ政府ノ御意向ハ如何デアリマスカラ承ツテ目タイト思ヒマス

最後ニ大東亞共榮圈ノ確立ト共ニ、南方淮出ハ當然行ハネバナラスト恩ヒマス、然ルニ南方ノ氣候、風土等ハ國內事情ト大いニ異ツテ居リマス、之ニ對スル所ノ醫療施設、又ハ醫療ノ研究、或ハ醫務各機關ノ設備が必要デゴザイマス、南方ニ進出スル所ノ人ラシテ、安ンジテ永住セシムルノ途ヲ講ズルニハ、此ノ醫療機關ノ設備充實、醫療研究ノ完成ヲ期セナケレバナラスト恩ヒマスガ、政府ハ此ノ南方ニ對スル醫療、醫務機關ノコトニ付テ如何ナル用意ト覺悟ヲ持ツテ居フレルノアルカラ承ツテ見タイト思ヒマス

以上數點ニ付キマシテ政府ノ明確ナル御答辯ヲ求メタイト思ヒマス（拍手）

（國務大臣小泉親彦君登壇）

○國務大臣（小泉親彦君）只今ハ人口政策ニ付キ御高見ヲ洵ニ有益ニ耳聽致シマシタ、人口政策ヲ強力ニ遂行致シマスルコトハ、我が民族ノ悠久ナル發展ヲ圖リマスル爲メ

必需要アリマスルバカリデナク、大東西其榮園ノ建設工作ト致シマシテモ、眞ニ喫緊ニ要務デアルト存ズルノデアリマシテ、曩ニ閣議決定ヲ見マシタル人口政策確立要綱ヲ、單ナル机上計畫ニ終ラセテハナラヌト云フコトニ付キマシテハ申スマデモナイ所ニアリマシテ、政府ニ於キマシテハ各省協力一致致シマシテ、浦切ナル施策ノ實施ニ最善ノ努力ヲ拂ツテ居ル次第ゴザイマスルガ、人口政策八只今ニ議員ノ御述べ、ナリマシタル如ク、經濟、教育、思想、文化等ノ各方面ニ亘リマシテ、綜合的ニ堆進シナケレバナラナイノデゴザイマシテ、此ノ點全然御同感ゴザイマス、政府ニ於キマシテモ此ノ點ニ留意シテ居ルノデゴザイマスルガ、將來ニ於キマシテモ更ニ御意見ノアル所ヲ十分ニ尊重考慮致シマシテ、人口政策ノ遂行ニ萬憾ナキヲ期シテ参りタイト次ニ核撲滅ニ關スル方策ニ付テ御尋ネデゴザイマシタガ、核撲滅ト致シマシテ、工場、鑛山等ヨリ農村ニ歸屬致シマスル者ニ因ル核蔓延ノ甚ダシキ現狀ニ鑑ミマシテ、工場、鑛山等ニ於キマシテモ、只今御述ベノゴザイマシタヤウナ早発見、早期治療等ノ爲ノ諸般ノ福利施設ヲ整充致シマシテ、更ニ農村ニハ醫療施設ヲ普及セシメナケレバナラスト云フコトニ付キマシテハ、只今ノ御意見ニ全ク同感ノ意ヲ表スル次第アリマス、今回提出ノ國民體力法ノ改正、國民醫療法ノ制定並ニ社會保險制度ノ擴充等、是等ハ何レモ仰セノ如キ點ニ付キマシテ大イニ實效ヲ擧ゲタ一イ、擧ゲナケレバナラスト云フコトヲ眼目トシテ居ル次第ゴザイマシテ、是等ノ法律案ノ施行ト云フ御尋ネゴザイマシタガ、人口政策ノ重相俟チマシテ、所期ノ目的ヲ達成致シテ参リタイト考ヘル次第アリマス

無醫科ノ解消ト云フコトガ急務デアルト云
乳幼兒ノ保護ニ付キマシテハ、隣保施設其
ノ他ノ保育事業竝ニ保健所ノ運營等ニ依リ
マシテ、鉛意努力致シテ居ル次第デアリマ
スガ、今後ハ是等ノ事業ヲ更ニ擴充シ、
併セテ日本醫療團ノ設立ト相俟チマシテ、
萬全ヲ期シタイト存ジテ居ル次第アリマ
ス

第四ニハ日本醫療團ノ運營ニ付テノ御質
問デゴザイマシタガ、之ニ付キマシテハ醫
療機關ノ不足セル方面ニ對シマテハ、御意
見ノ通り必要ナル部面ニ速カニ之ヲ建設ス
ルコトト致シ、既存ノ醫療機關ノ統合ニ付
キマシテハ能ク事情ヲ考慮致シマシテ、遺
憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第ア
リマス

第五ハ醫療團ノ經營ニ當ツテハ收入ニ重
キヲ置イテ、爲ニ營利化スルコトガナイヤ
ウニ注意スペシト云フ御意見デゴザイマシ
タ、日本醫療團ニ對シマシテハ、結核ナムラ
他事業ノ性質ニ鑑ジマシテ、政府ニ於キマ
シテモ必要ナル補助ノ途ヲ講ジテゴザイマ
スルシ、其ノ運營ニ當リマシテモ、十分留意
致シマシテ、營利スルガ如キコトハ決シ
テナイヤウニ努ムル考ヘデゴザイマス

第六ニハ、保健所ノ擴充ノ必要ト云フコ
トニ付キマシテノ御意見デアリマシタガ、
此ノ御説ニ付キマシテモ、全然御意見ノ通
リト存ズル次第アリマス、保健所ハ全國
ニ五百五十箇所設置スルノ計畫ヲ立てテ進
シテ居ルノデアリマスガ、今後成ベク速カ
ニ此ノ計畫ガ完了スルヤウニ十分努力シテ
行キタイト考ヘテ居リマス

最後ニ大東亞共榮圈確保ノ爲メ日本醫
學、日本ノ醫療機關等ヲ南方ニ進出セシメ
テ、國民ノ南方進出ニ安心ヲ與ヘルヤウニ
シタラドウカト云フ御質問デアリマシタガ、
全ク傾聽スベキ御説ト存ジマシテ、満腔ノ
共鳴ヲ致ス次第デアリマス、政府ニ於キマ
シテモ夙ニ此ノ點ニ留意シテ居ル所デアリ
マシテ、御意見ノ點ニ付キマシテハ、十分
ニ考慮ニ入レマシテ善處シタイト考ヘテ居
リマス(拍手)

○阿部茂夫君　只今上程ニナツテ居リマス
ル法律案中醫療法ニ關シテ二、三厚生大臣
ニ御質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、
同僚三善君カラ醫療法中醫療團ニ關シテノ
御質問、其ノ他數多ノ御質問ガアリマシタ
ガ、厚生大臣ノ御説明ハ餘リニ抽象論ニ過
ギテ、質問ノ要點ニ對スル御答へガ得ラレ
ナカツタト私ハ思ヒマスノデ、或ハ重複ス
ルカモ知レマセヌガ、一、二點御質問申上
ゲタイト思フノデアリマス
第一點ハ、所謂醫療法ガ醫療ノ普及徹底
ヲ圖リ、大東亞共榮圈確立、大東亞戰爭向
ノ爲ノ戦力増強ノ爲ニ國民ノ體位向上、
スルト云フ點ニ對シマシテハ、本案提出ノ
理由ガ能ク分ルノデアリマスガ、具サニ之
ヲ検討致シマスト、單ニ醫療ノ普及、體位
ノ向上ノ爲ニ出サレタト云フヨリカ、寧ロ
結核療養ニ重點ヲ置カレタノデハナカラウ
カト私ハ思フノデアリマス、然ラバ政府ハ
結核豫防法中改正案ガ體力審議會ニ於テ略
成案ヲ得タト云フコトヲ伺ツテ居ルノデア
リマスガ、何ガ故ニ本案ガ提出サレナカツ
タカ、此ノ理由ヲ一一點御聽キ致シタイノデ
アリマス

第三點ニ伺ヒタノ問題ハ、此ノ醫療團結成ニ嘗リマシテ、其ノ組織アリマスガ、法文ノ示ス所ニ依リマスト、總裁、副總裁ガ各、一名理事ガ五名以上、監事ガ二名以上、參與、理事、評議員及ビ顧問若干名ト云フコトニナツテ居リマス、大臣ノ御説明ヲ伺ヒマスト決シテ本醫療團ハ所謂營利ヲ目的トスル營團、或ハサウ云フ組織デハナライ、斯ウハツキリ申サレルノデアリマスケレドモ、内容ヲ見スマルノ多役人ト云ヒマスカサウ云フ人々ガ澤山苟含サレルユウデアリマス、是ハ中央ノ營團ニテソレデアルガ如ク、地方ノ病院等々ニ於キマシテモ之ニ準ジタ人事ノ配置ヲナサル御意思デアルカ、餘リ人ガ多クナリマスト、所謂船ガ山ニ登ルト申シマスカ、此ノ醫療團ハ即チ醫療ヲ目的ト致シテ居リマス事業ナルニ、斯ウシタ評議員ダトカ、顧問ダトカ、理事ダトカ云フヤウナ人ガ澤山周圍ニ群ガルコトハ何ヲ意味スルカ、營利會社ナライザ知ラズ、結局其ノ目標ハ保健衛生、即チ國民ノ體位向上ヲ目的ト致シテ居リマスカラ、所謂金ノ掛ル人ハ一人デモ之ヲ除去シナケレバナラナイト私ハ思ヒマス、然ルニ其ノヤウナ人ガ段々入ツテ來ル、承ル所ニ依リマスト、此ノ醫療團ノ總裁ハ何万圓力ノ約束ヲサレテ居ルト云フヤウナコトヲ聞キマスガ、マサカ總裁ガ數万圓ノ金ヲ戴クト云フコトハアリマスマイト思フガ、假ニサウ云フコトガアリマスルナラバ、政府ハ民間デ折角數年、數十年ノ間苦戦苦闘シナガラ經營シテ來タ病院ヲ合セテ一ツノ醫療團ヲ作り、惡ク申シマスト官僚トカ、其ノ他ノ失業者ノ群ヲソコニ包含スルヤウナ機關ヲ置イテ、尙ホ國民ノ保健衛生ノ立場ト云フヤウナ説明デ居ラレルノデハナイカト云フ疑問ヲ私ハ持ツノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテ政府當局ハモウ少シ組織ヲ簡便ニシテ、寧ロ目的貫徹ノ上ニ重點ヲ置カレテ、人事ノ配當トカ、組織ヲモウ少シ簡便ニサレル御意思ガアルカ、之ヲ伺ヒタノデアリマス

第四點ハ所謂是ノ計畫デアリマスガ、斯ウシタ營團組織ニ依ル病院ト、既設ノ開業醫トノ關聯ハドウ云フヤウナ所デ御付ケニナル御積リカ、換言シマスナラバ、公設デ出来マシタ此ノ病院ヲ、開業醫諸君ニモ十二分ニ使用ル許シマシテ、ソコニ新シキ進ンダ設備、之ヲ總テニ利用ナサシムコトニダツテ、直接間接ニ國民ノ醫療ヲ分ナサシヌエヤウナ、所謂門戸開放主義ニ出ルモデアリマセウカ、ソレトモ單ニ營團ト開業醫トニ本建デヤラレ御積リデアルカ、此ノ點ヲ御説明願ヒタインデアリマス先ニ三議員カラ色々御質問ガアリマシタガ、所謂本團ノ結成ノ目標トモサレテ居リマス、結核對策ノ問題デアリマスガ、申スリマデモナク結核患者ハ日本ガ文明國デアリ、醫療國デアルニ拘ラズ、百數十万ノ患者ヲラシテ居ルト云フコトニ付キマシテハ、洵ニ計數ノ上カラ戰慄ヲ覺エルノデアリマス、殊ニ私ハ他ノ方面カラ觀察シマスルニ、東京市ニハ約八十五万ノ兒童ガ居リマスガ、其ノ八十五万ノ兒童ノ中デ將來此儀放任シテ置キマスルナラバ、必ず結核病者ニナリ得ルト云フ血沈ノ現ハル子供、或ハ虛弱兒童等々ヲ見マスルト、大體八十五万ニ對シテ八万數千、一割強ノ人ヲ出シ、而モ其ノ一割強ノ虛弱兒童ノ中デ只今直グデモ病院ニ入院サシ、加療シナケレバナラナイ兒童ガ八、九千居ルノデアリマス、勿論政府ハ適當ナル方法ニ依ツテ、然ニサウシタ治療ヲナサレル對策ヲ立テラレルト云フコトデアリマスルガ、サウシタ聲ハ實ニ過去數年間聞イテ居リマスガ、未ダ曾テ此ノ憐ムベキ第二ノ國民デアル國民學校ニ於ケル兒童ヲ本當ニ健全ニ導クベキ共團體以外ニ國家ノ手ニ依ツラナサレタルカドウカ、要スルニ政府ハ今議會ニ提案サレマシタ此ノ法案ニ依ツテ、將來五億二千萬圓ノ金ヲ投ジ、内一億圓ハ所謂結核對策トシテ八万床ノ病床ヲ殖ヤスヤウナ

畫デアラレマスガ、八万床ヲ殖ヤシマシタ所デ、我ガ國ニ於テハ肺結核ノ爲ニ療養スベキ病床ハ合計十万床シカナノデアリマス、而モソレハ五年後デナケレバ完成サレナイ、縱シシバ五年後ニ完成サレルニシマシテモ、ソヨニ行クベキサウシタ小國民ノ群ガ既ニ五歳ニシテ侵サレ、六歳ニシテ侵サレ、十歳ニシテ侵サレ、十五歳ニシテ第一期、第二期ニナルヤウナモノヲ作ツテ居リマシクノデハ、五十万床ガ二十万床作リマシタ所デ、ノゾムニ云フコトハ絕對アリ得ナイ、斯ウシタ所謂肺病ニ罹リ、結核第三期ニナツタ者ヲ治療スルト云フコトモ勿論刹下ノ重大ナル問題デアリマスガ、ソニ行クマデニ早期ニ之ヲ療養スベキ方法ヲ國家デ考ヘナケレバイカヌ、斯ウ云フ方法面デ、私ハ最近遡ニ説明ニ苦シムノデアリマスルガ、獨リ傷心ノ至リニ堪ヘナイノハ、此ノ都市ニ於ケル數十万ノ兒童、全國ニ於ケル五百万ノ兒童ニ對シテハ少クトモ單ナル一步前進シタ程度デナクシテ、政府ハ進ンデ次ノ時代ニ於ケル健兵ヲ造ル、次ノ時代ニ於ケル強キ兵隊ヲ造り、強キ國民ヲ造ル、斯ウ云フ見地ニ於テ假令戰時下デアリト雖モ、斯ウシタ兒童ニ對シテ百尺竿頭其ノ策ヲ御進メニナル御意思ガアルカドウカ、之ヲ私ハ伺ヒタノデアリマス

最後ニ伺ヒタ問題ハ、所謂醫療團設置ニ際シマシテ公立若シクハ、產業組合、其ノ他ノ病院等々ヲ統合サレルヤウデアリマスガ、其ノ統合ニ當ツテノ買收等ニ關スル財產上ノ計數ノ基本ト云フモノハ、一體ドノ點ニ置カレテ居ルカドウカ、茲ニ現在マデ此ノ病院等ニ勤メテ居リマスル所謂醫療關係者以外ノ事務從業員ニシテ、長キハ十年、數十年恩給ヲ樂シミ、或ハ一時金ヲ樂シミ、デ居リマシク者等々ガ、統合サレル場合ニ、其ノ儘次ノ營團ニ引繼ガレルノデアリマセウカ、或ハ一時金絶サレルノデアリマセウカ、サウ云フ點ニ對シテ是等ノ從業員ニ對スル對策マデ御考ヘニナツテ居ルカドウカ之ニ關聯シマシテ、私ハ最後ニ政府ノ御決

意ヲ伺ヒタイノハ、之ヲ總括シテ考へマス
ト、考へ方ニ於テハ洵ニ妥當テアルヤウデ
アリマスルケレドモ、實際ノ運營ニ當ツテ
果シテ政府ガ考へテ居リマスルヤウナ、五
年後ニハ完全ナル結果ガ得ラレルカドウカ
ト云フ點ニ對シテ頗ル私ハ疑ヒヲ持ツモ
ノデアリマス、何トナレバ政府ハ一億圓ノ
金ヲ出資シ、五億ダケノ債券ヲ出サセテ、
五億二千數百万圓ニ依ツテ之ヲ完成ナサレ
ヨウト云フ御考へデアルヤウデアリマスガ、
勿論設立ハソレデ宜シイケレドモ統合サ
レテ參リマス既設ノ病院、既設ノ診療所、
既設ノ公益法人ノ病院等々ガ今日マデ數年、
數十年ノ間經營ニ苦心慘憺シテ參リマシタ
資トヲシテ居ルノデアリマスケレドモ、性
質ガ公益のナモノデアリマスルガ故ニ、此
ノ投資及び犠牲ガ此ノ買収等ノ場合ニ於
マシテハ勿論暖簾料ニハ上リマセヌ、暖簾
料ト云フコトヲ申シマセヌデモ、今日マデ
ノ經營ニハ例へテ見マスト、東京市モ十
ノ病院ヲ經營シテ居リマスガ、四百五十數
万圓ノ金ガ掛リマスガ、此ノ四百五十數万圓
ノ中デ其ノ六割、即チ三百万圓ト云フモノ
ハ年々歲々之ヲ投資シテ居リマスガ、決シ
テ上リマセヌ、サウシテ辛ウジテ今ノ形
ヲ保ツテ來テ居リマスガ、醫療團ガ出來マ
シテ、サウシタツノ闇カラ闇ニ参リマス
ル缺陷ヲ國家ガ補償シテ、其ノ闇ヲクスル
ヤウニ考ヘルノカ、或ハ其ノ缺陷ヲ東者ニ負
擔ナサシメヨウト云フ考へデアルノカ、延
イテ此ノ數億圓ノ投資ヲ三十年間ニ於テ完
済スルト云フヤウナ御考ヘデアルヤウデア
リマスガ、果シテソレマデニサウシタ利潤
ガ此ノ病院ノ經營ノ上カラ出ルデアリマセ
ウカ、出ナカツタ時分ニハ之ヲ一體國家ガ
全額持ツト云フ御考ヘデアルカ、或ハ民衆
ニソレヲ負擔セシムル御考ヘデアルカ、假
ニモ其ノ何分ノ一ナリ、何百分ノ一デモ
申者ニ負擔サセルト云フヤウナコトガアリ
マスナラバ、折角國家ガ健全ナル國民養成
ノ爲ニ作ラレヨウト致シマシタ醫療團ノ經
營ガ、廳テハ國民ノ呪ヒノ的トナルヤウナ
コトガ萬々一デモアルヤウナコトガアリマ
スナラバ、國家ノ爲ニソレコソ私ハ重大事
ト思ヒマスガ、政府ニハサウシタ計數上ノ

○國務大臣（小泉親彦君登壇）　御答へヲ申上ゲ
ノ點ヲ御聽カセ願ヒタインデアリマス、私
ノ質問ハ是デ終リマス（拍手）
〔國務大臣小泉親彦君登壇〕

マス、第一ハ結核豫防法改正案ニ付テ、又
之ニ關聯シマシテ、日本醫療團ノ目的ト、又
結核ノ豫防トノ關係ニ付キマシテノ御意ネ
デゴザイマシタガ、結核ニ付キマシテハ治
療ノミナラズ、豫防ノ方モ力ヲ注ガナケレ
バナリマセヌト云フコトニ付キマシテハ全
ク御同感デアリマスノデ、將來出來ル限り
本團ハ豫防機關ト緊密ナ連絡ヲ保ツテ遺憾
ナキヲ期シテ行キタイト思ツテ居ル次第デ
アリマス、結核豫防法ノ改正意見等ハ大體
ニ於キマシテ今回ノ醫療法ノ中ニ於テ探入
本團ハ豫防機關ト緊密ナ連絡ヲ保ツテ遺憾
ナキヲ期シテ行キタイト思ツテ居ル次第デ
アリマス、結核豫防法ノ改正意見等ハ大體
ニ於キマシテ今回ノ醫療法ノ中ニ於テ探入
レテゴザイマスガ、從來ノ豫防ニ於キマシ
テハ、結核患者ノ隔離ト云フコトが重點
置カレ、居リマシタノヲ、體力実議會ノ委
員會ニ於キマシテ、早明見ヲシテ、サ
ウシテ豫防ヲスルト云フ所ニ重點ヲ置カナ
ケレバナラナイト云フヤウナノ骨骨デゴ
ザイマス、此ノ點ハ今回ノ國民體力法ノ改
正ノ上ニ於キマシテ其ノ點ヲ十分ニ採入レ
マシタノモ亦結核豫防ニ重點ヲ置キマシタ
ヤウナ次第ゴザイマシテ、結核豫防ニ付
キマシテハ全ク御意見ノヤウニヤツテ行ク
積リデ居リマス

第二ニ精神病、マラリヤ等ヲナゼ除外シ
テ居ルカト云フ御尋ネデゴザイマシタガ、
是等ノ特殊ノ疾病ニ付キマシテハ、日本醫
療團ト云フモノガ致シマスヨリカモ、特
殊疾病トシテ他ノ有力ナルモノヲ働カセナケ
レバナラナイ、殊ニ本次戰爭ノ關係カラス
クノ如キモノガ將來多發シナイトモ言ヘナ
イノデアリマシテ、此ノ點ニ關シマジテハ
銳意研究ヲ致シテ居ル次第ゴザイマス
第三ニ醫療團が既存設備ヲ総合スル其ノ
範圍如何、又統合スルモノト除外スルモノ
トニ付テノ理由ヲ御尋ネニナツタヤウニ拜
承ヲ致シタノデアリマスガ、日本醫療團ハ、
醫療ノ内容ヲ向上致シ、サウシテ其ノ適正
ナル醫療ヲ國民ニ普及スルト云フ、醫療機
關ノ組織ヲ體系的ニ整備シマスル爲ニ必
要ナル限度ニ於キマシテハ、既存ノ醫療機
關

〔総合スルコトモ考ヘテハ居ルノデゴザイ
マスガ、其ノ種類範圍等ニ付キマシテハ、
豫メ之ヲ限定シテ考ヘテ居ル譯ハゴザイ
マセヌ、又御指摘ニナリマシタ赤十字社病
院ノ如キ、特殊ノ目的ヲ持ツテ居リマスル
モノ、即チ戰時陸海軍衛生勤務帮助ノ爲ノ
救護且養成ヲ目的トシテ居リマス病院又
ハ濟生會病院等ノ如キ特殊ノモノニ對シ
シテハ、他ノ特殊ノモノト致シマシテ、今
回ハ是ノ中ニ含メテ居ラナイ次第デゴザイ
マス

第四ニ日本醫療團ノ中央地方ノ組織、殊
ニ人事ニ付テ從來アル營團ノ如キ役人ノミ
デハマヅイ、モツトシツカリヤレト云フ御
考ヘノ御意見デゴザイマシタ、日本醫療團
ノ醫療及び事務ノ組織ニ付テハ、飽クマデ
モ御意見ニアリマシタ通り慎重ヲ期シ、遺
憾ナキヲ期シタイト存ジテ居ル次第アリ
マス、尙ホ本團ニ於キマシテハ醫師ガ其ノ
仕事ヲ致シマスル上ニ必要ナル指導、又補
習等鍊成ヲモ行フ豫定デアリマスガ、新タ
ニ茲ニ醫者ヲ養成スル計畫ハシトラニイ
ノデゴザイマス、又更ニ其ノ人事等ニ付キ
マシテハ、全ク御意見ノ如ク醫師ノ力ニ依
リマシテ、本日案ノ證明ヲ申上ガマシタ
ル如ク、協力ニ依ツテ醫界新體制ノ形ニ於
テ運營シテ行キタイト考ヘテ居ル次第デゴ
ザイマス

第五ニ醫療團ト開業醫トノ關係ニ付テ御
憲ネデゴザイマシタガ、開業醫制度ノ長所
ハ何處マデモ發達育成スルト云フコト、是
ハ國民醫療上極メテ必要デゴザイマシテ
療團ハ醫療事業ヲ獨占スルト云フ趣旨ノモ
ノデハゴザイマセヌ、開業醫ト連絡協調致
シマシテ、進ンデ紳正ナル開業醫ノ發達育
成ニ寄與スルヤウニ具體的ノ運營ニ付テハ
醫界ノ總力ニ依ツテ、醫療團ト表裏一體タ
ル醫師會、齒科醫師會等トノ協力ニ依ツテ
遺憾ナキヲ期シテ行クト云フ考ヘデ居リマ
ス

第六ニハ國民學校兒童ノ保護、殊ニ結核
ニ關聯シマシテ、之ニ對シテノ御尋ネデゴ
ザイマシタガ、此ノ點ニ付キマシテハ政府
ト致シマシテモ、今回ノ改正案ノ内容ト致
シマシテ、最モ慎重研究ノ結果盛リマシタ
シマシテ、國民體力法ノ
ヤウナ次第デゴザイマシテ、國民體力法ノ

改正ニ依リ、乳幼兒學童等ヲ保護致シマシテ、是等ニ對シテ從來ノ保健所ノ機構等ニ對シテモ考慮ヲ致シ、色々ノ改正ヲ立案致シマシテ、萬遺憾ナキヲ期シタ次第デゴザイマス。

第七ニ、醫療團が既存ノ病院ヲ統合スル場合ノ評價ノ計算標準ヲ何處ニ置クカト云フ御尋ネデゴザイマシタガ、醫療機關ヲ統合スル場合ノ評價ニ付キマシテハ、他ノ例ヲモ參照致シマシテ、且ツ醫療事業ノ性質致サシムル所存デアリマス、尙ホ統合ノ際ニ於ケル従業者ノ待遇等ニ付キマシテハ、決シテ本人ニ迷惑ヲ掛クルコトノナキヤウニ考慮致シタイト存ジテ居リマス。

最後ニ將來ノ日本醫療團ノ運營上ノ見込如何ト云フ御尋ネデゴザイマシタガ、此ノ點ニ付キマシテハ私共十分ナ研究調査、又凡ユル方面ノ、所謂總理大臣ノ申シテ居リマス現時ノ頭腦ノ總動員ノ下ニ、此ノ實效ヲ收メルコトニ善處致シタイト考へテ居リマス、又ソレニ對シマス色々ノ國家ノ補償等ニ付キマシテハ、先程御答ヘ申上ゲマシタヤウナ準備モ致シテ居ル次第ゴザイマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス。

(拍手)

○依光好秋君(日程第十一乃至第十五ノ五案ハ、一括シテ議長指名三十六名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ望ミマス)

○副議長(内々崎作三郎君) 依光君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(拍手)

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○副議長(内々崎作三郎君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ議事日程ハ議了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス。

午後四時三十八分散會